

特 240

491

篇二十二第科實究研業事會社

養教の其と童兒常異

課會社部務學縣山岡



\* 0052487000 \*

0052487-000

特 240-491

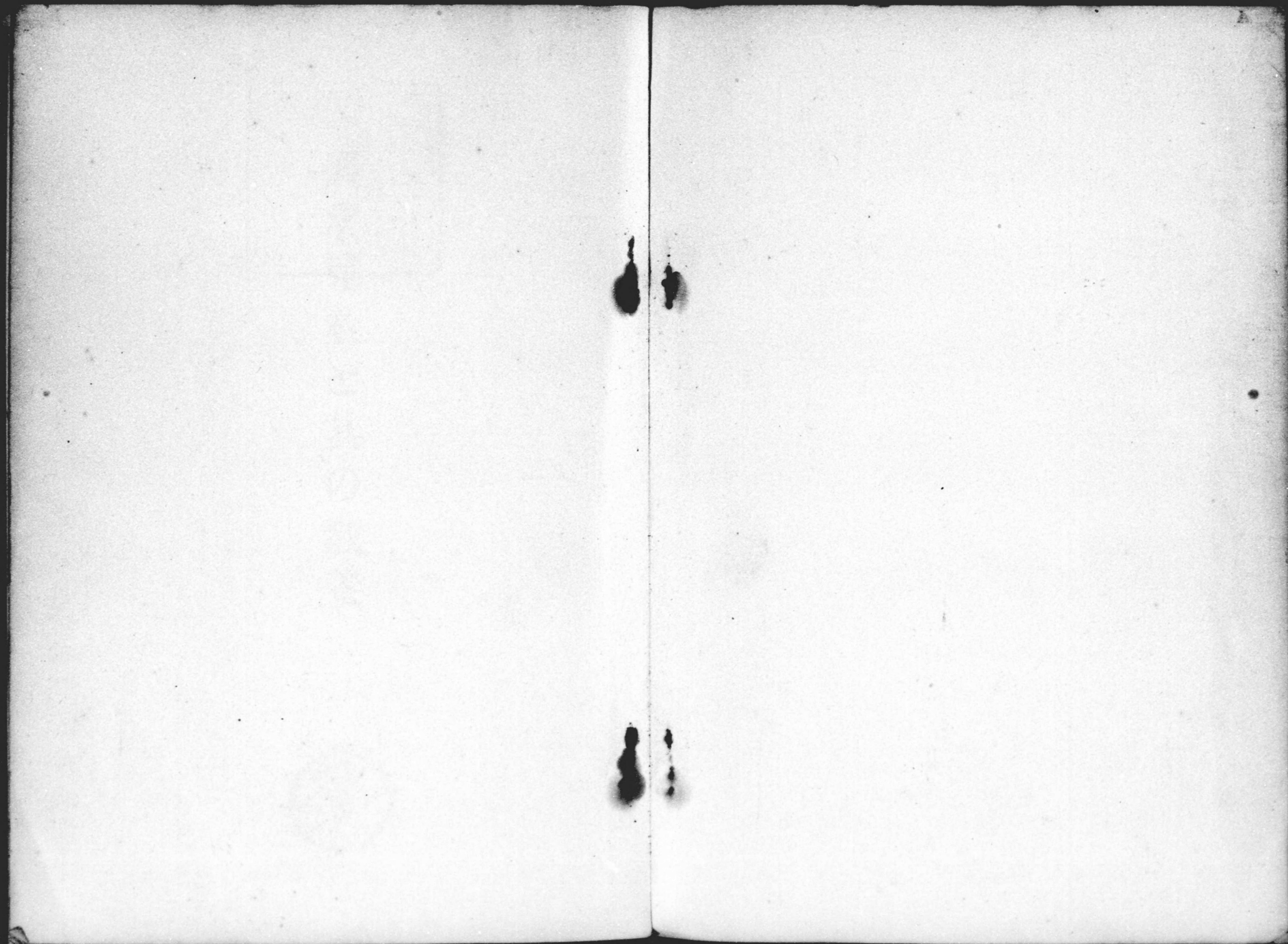
異常兒童と其の教養

岡山県学務部社会課

昭和4

AHO







特240  
491



異常兒童と其の教養





はしがき

異常児童の保護は児童保護事業の中で最も困難とされる事業である。異常児童は先天的、後天的に、生理的、心理的に夫々缺陷を有しその多くは非社会的特性の所有者であつて社會に多大の悪影響を及ぼすものであるから身體的にも精神的にも適切なる處遇方法を施してその教養に努めねばならぬ。本集に輯録した資料は醫學博士三田谷啓氏の蒐集されたものであつて新業遂行上好参考たるを以て特に博士の嚴密なる校訂を得て上梓したものである。

昭和四年三月

岡山縣



# 異常兒童と其の教養

## 目次

### 總 說

異常兒童……………	一
個性票……………	二
ビネー、シモン智力検査法……………	二七
智能率……………	三三

### 精神薄弱兒童

精神薄弱兒童の年齢及智能的分類……………	三三
落 第……………	三三
精神薄弱兒、精神薄弱兒教養法……………	三四
癡愚兒童の教養……………	三五
魯鈍兒の教養、白癡の教養……………	三六











- (2) 天才 (Genie) 優秀以上のもの
- (3) 天才 (Genie) 最高のもの

B、低能兒童 (精神薄弱兒童) (Intelligenzdefekt)

- (1) 魯鈍 (Dullness) 普通より稍劣れるもの
- (2) 癡愚 (Imbecillitas) 魯鈍より稍劣れるもの
- (3) 白癡 (Idiot) 最も劣れるもの

1、輕度白癡      2、中度白癡      3、重度白癡

二、性格異常兒 (精神低格兒) (Charakterfehler)

これは主として意志及感情に缺陷あるものを云ふ。不良少年は多くこれに屬する。

精神病の兒童は嚴格に云へば異常兒童であるけれども治療教育學に於ては精神病兒を算入せぬのである。又高能兒童は普通治療教育學の範圍外に置くのである。

個性票

兒童の生活狀態を觀察して、これを一目瞭然たらしむることは、教育上の參考として極めて肝要のことである。この關係は異常兒童にありても同様である。今左に數例の個性票を示す。

生徒個性票 (ライ氏)

甲、遺傳及機能

一、遺傳

二、家庭及周圍

a、家庭

- 1、營養狀態 衛生ニ悖ル家庭ノ缺陷、酒中毒等
- 2、諸疾病
- 3、睡眠時間 深淺、時間、睡眠中ニ伴フ現象
- 4、遊戲及回復 方法及ビ時、家庭ノ職業ヲ補助スルタメノ職業、學校以外ノ副教授等
- 5、教育 兩親ノ生活狀態及ビ其弊害、其例……

b、交友

- 1、親友及ビ遊ビ友達
- 2、公衆生活 市街宗教、政治團體

c、自然

家又ハ住居ノ周圍ノ關係

三、諸感覺及ビ諸運動機關相互ノ關係

- a、肉體的及ビ心理的活動      b、疲勞      c、才能      d、性格

乙、身體的性狀

一般狀態、體質、身長、體重、畸形疾病

丙、精神的性狀

一、受感的・直覺ノ形式



- 二、觀念聯合格―注意、記憶、興味
- 三、行爲 的||諸種ノ運動、熟練、行爲

個人検査票 (トリニーベル氏) 抄録

氏名

年齢

入所ノ月日

甲、遺 傳

- 一、兒童ノ名
- 生年月日
- 出生地
- 二、父ノ名
- 三、母ノ名
- 四、兩親ハ尙ホ生存カ
- 五、兩親ナケレバ後見人ノ氏名
- 六、兄弟姉妹ノ數
- 七、兩親ナケレバソノ死亡ノ年齢及ビ死因
- 八、祖父母ハ尙ホ生存スルカ
- 九、父ノ業務

一〇、兒童ハ醉中ニ受胎セシモノト信ズル理由アリヤ

- 一一、兩親中ノ一人ガ該兒童ノ出産前ニ酒ヲ濫用セシコトアルカ
- 一二、兩親中ノ一人ガ該兒童ノ出産前ニ精神病又ハ神經病、癲癎狂ニ罹リシコトアルカ
- 一三、祖父母、又ハ父母ノ兄弟姉妹ノ中ニ身體ノ病氣及ビ精神病ニ罹リシモノアルカ
- 一四、父母ハ近視ナルカ

乙、胎生兒素因及發育ノ關係

- 一五、生殖時ニ於ケル父ノ状態
- 一六、受胎時又ハ妊娠ノ間、母體ニ故障アリシカ
- 一七、娩産ノ經過ハ如何

丙、學齡以前ノ兒童ノ發育

- 一八、分娩ニ際シテ兒童ノ状態
- 一九、營養ノ種類
- 二〇、兒童ノ看護ハ如何ナル状態ナリシカ
- 二一、營養状態ハ如何ナリシカ
- 二二、兒童ガ罹リシ疾病ハ如何、何時コレニ罹リシカ、ソノ不良結果ハ如何
- 二三、齒牙發生ハ何時始マリシカ
- 二四、疳積ハ何回シタルカ、何時ナシタルカ
- 二五、汚穢(所カマハズ尿管ヲ排泄スルコト)ハ何時止ミタルカ



- 二六、運動ノ發育、兒童ハ何時立テ始メシカ
- 二七、遊戯慾ハ如何ニ發達セシカ
- 二八、模倣(笑ヒ、歌ヒ、話シ、反動)ノ第一ハ何デアリシカ
- 二九、温覺ニツキテ何が注目サレシカ
- 三〇、觸覺ニツキテ何が注目サレシカ
- 三一、痛覺ニツキテ何が注目サレシカ
- 三二、嗅覺ニツキテ何が注目サレシカ
- 三三、味覺ニツキテ何が注目サレシカ
- 三四、聽神ノ發達ニツキテ何か觀察セラレシカ
- 三五、言語ノ發達ニツキテ何か觀察セラレシカ
- 三六、視神ノ異常アルカ
- 三七、色彩ヲ識別シタノハ何時カ
- 三八、形態神ノ發育ハ如何
- 三九、鉛筆ヲ以テ書クコトヲ何時始メシカ
- 四〇、計類神ノ發達ハ如何
- 四一、時間觀念ノ發達ハ如何
- 四二、倫理觀念及ビ宗教觀念ノ成立ニツイテノ觀察ハ如何
- 四三、記憶ノ領域ハ如何

- 四四、想像ノ發達ハ如何
- 四五、思考作用ノ發達ハ如何
- 四六、記憶ノ領域ニ存スル事柄ノ何レニ對シ注目、觀察及ビ趣味ヲ有スルカ
- 四七、覺官、感覺及ビ全體感覺ニ病的狀態ヲ呈スルカ
- 四八、容易ニ疲勞ヲ覺エシカ
- 四九、情緒ノ刺激性衰弱ヲ認メシカ
- 五〇、情緒及ビ意志ノ發達ニ於テ別ニ注意スベキ事項アルカ
- 五一、宗教的感情ハ如何、如何ニシテ起リシカ
- 五二、特殊ノ習慣アルカ、何時カラ始マリシカ
- 五三、何等カノ仕事ヲ學ビシカ
- 五四、幼稚園ニ入りシカ
- 五五、書字及ビ讀書ヲ試ミシカ
- 五六、小學校ニテ學ビシカ

補助學校生徒個性票(ダルク氏)

- 一、人柄(教師ガ記載スル)
- 1、姓 名
- 2、年齢、生地、宗教
- 3、父母ノ姓名、地位



二、病 歴

a. 家族病歴

- 1、兩親兄弟ノ疾病、死因、健康狀態
  - 2、神經病、精神障礙、聾啞
  - 3、兩親ハ血族結婚カ
  - 4、兩親ノ營養狀態
- b. 兒童病歴
- 1、分娩經過
  - 2、授乳(人工カ母乳カ)
  - 3、現今マデノ身體發育狀態

イ、齒牙發生

ロ、何時カラ歩行ヲ始メタカ

ハ、五官機能ノ發育

ニ、現時迄ノ疾病、特ニ癲癇、其ノ他ノ神經病

4、智能發育

イ、何時言語ヲ發シタカ

ロ、言語障礙ヲ何時頃認メタカ

ハ、如何ナル種類ノ障礙カ

ニ、何時精神異常ヲ認メタカ

ホ、如何ナル場合ニ精神異常ヲ生ジタカ

ヘ、想像サルベキ原因(不慮ノ災、疾病、身體的又ハ精神の過勞、或ハ疎野ノ教育)

ト、精神異常ハ永續的ナリシカ、一時的カ、進行的カ、停止的ナリシカ

チ、現今マデ醫學的、教育的處置ヲ施サレシカ、及ビソノ結果ハ如何ナリシカ

5、倫理的教育

該兒ハ特別ノ小兒缺陷ヲ有スルカ、衝動又ハ行爲ニ異常ノ傾向アリヤ(虚言、破壊性行動、感病、懶怠等)

三、現在歴(醫師ガ記入スル)

1、身體的性質

a、一般體質(體重、身長、外見、顔貌、營養狀態、姿勢、筋肉、頭形等)

b、五官機能

イ、眼

ロ、耳

ハ、嗅覺及ビ味覺

ニ、痛覺及ビ觸覺

オ、身體各部ニ於ケル畸形(口蓋破裂、齒牙缺損)

d、認識シ得ベキ病的現象(腺病、佝僂病、脊柱彎曲、甲状腺腫、内臟器ノ所見、鼻呼吸)

e、痲痺及ビ拘攣ノ有無

f、舞踏病權運動及ビ痙攣

2、感情及ビ意志(検査ノ際、感情及ビ意志界ニ缺陷ト稱スベキモノノ根據ヲ認ムルカ、例、興奮、恐怖、不穩、沈鬱、氣儘等ノ傾向又ハ興味ヲ認識シ得ルカ)



3、知的行爲

- a、注意
- b、考察能力ハ如何ニ行ハルルカ(即チ不活躍ナルカ、迅速、靜肅、跳躍ナルカ)
- c、言語 自ラ一人稱ニテ話スカ、不定法ニテ話スカ、言語ニ障碍アルカ
- d、想像
- e、記憶(一方ニ偏セヌカ)
- f、判断及ビ決定
- g、數 観 念
- h、形 態 観 念
- i、色 彩 観 念
- j、時及ビ場所觀念ノ存否

第三項ハ該兒ノ補助學校在學中ニ追加スベキモノデアル

智力検査法

智力検査法ニハ知識(Intelligence)ノ程度を科學方法で測定するものを謂ふ。

計算能力——計算の問題を出してそれを解かせる。次の式で整理する。能力 =  $\frac{\text{正解(\%)}}{\text{時間(分)}}$

書法(ガントル法)——諷刺語又はボンチ書を見せてその内容を聞き、これにて智能の判断をする。

小話法(メルレル法)——兒童によく知られて居る話を初めの部分だけ聞かせて、その後の部分を言はせる。

検査器(下、サンクチス法)——この器の内容は色の違つた且大きさの異なる立體形のものでこれを順序に並べたり、大、中、

小、色等を聞いて能力を検査する。

痛覺法(カルマン法)——痛覺を検し、鋭敏なるものは一般に智能すぐれりを見做す。

色命名法(ワールブルグ法)——厚紙の上に白、黒、赤、黄、綠及び青色の毛糸をはりつけ、又別の厚紙の上に褐色、灰白、色、紫色の毛糸を張り付けこれ等を見せて色の名を云はせる。

シルバート及びスクリプチユア法——重量の比較、色の區別、聽覺の刺激に對する反應時間の三つを検して智力の標準とする。

スピーアマン法——學校成績、教師の見込、常識等を綜合して智力の程度を見る。

タルクバトリック法——計算の早さ、カルタの種別選擇等にて智力を検す。

記憶力(モイマン法)——初めは具體的物品の名を抽象的名稱を記憶させてその再生能力を検す。

カツテル、フアランド、ウイスラー法——手の握力、大きさ、視力、疲勞、色覺、聽力、音の差、重量の差別、痛覺等で智力を検す。

智力検査函(ワイガント法)——幼兒の智力を検査する目的で造られたものでその内容は左の如くである。

- 一、視覺に因る物品——匙、茶碗、小籠、小刀、肉叉
- 二、視覺及觸覺に因る簡易なる物品の標本——刷毛、海綿
- 三、自然大に模作せる見慣れた物品の標本——林檎、梨子、鼠、鳥
- 四、縮少して模作した見慣れた物品の標本——椅子、馬、羊、雌雞、雄雞、雛、兵士、大砲、白鳥、小舟
- 五、縮少して模作し著せぬ物品標本——小舟、駱駝、馬
- 六、縮少し且平面にせる物品標本——平面にせる馬、平面にせる羊



- 七、使用の動作を試みる模型——人形
- 八、使用の働きを試みる物品——鏡、錠前
- 九、聴覚を検するに用ひる物品——呼び笛、泣く蛙、自動樂器、小鈴、小形ピストル
- 二〇、技術の巧拙を検する物品——毯、受け毯、こま、金屬琴
  - 一一、強い感覺刺激を發するもの——懐中電燈
  - 一二、運動を行ふ玩具——走る鼠、走る甲虫、走る人形、飛ぶ蝶、跳ねる蛙、小さき自動車
  - 一三、感動を惹起するもの——蛇の出るびつくり箱、小さき蛇、動く蜘蛛、南京虫
  - 一四、重量感覺の錯誤を検する器——小さき圓筒、大なる圓筒
  - 一五、手細工を検するに用ふる物——釘をかけるもの、紐を縛るもの
  - 一六、目と手との運動の巧拙を検する器具——置繪遊び、組み繪、積み石細工
  - 一七、繪畫及び細工の技能——蠟細工箱、著色繪本、色鉛筆
  - 一八、色 彩 書
  - 一九、墨 繪
  - 二〇、陰 影 繪
- 質問法(プラン法)——外況、言語、名稱、親戚、年齢、身體、運動、物品名稱、内感、場所、本國、兵役、朗讀、筆談、計算、圖書、職業に關して
- 結合法(エツピングハウス法)——文章の中に缺けたるところを造り置き、これを補添させる。
- 繪畫補添法(ヘンネベルグ法)——繪畫を補添させる。

諷刺畫法(ガントル法)——諷刺を主とした五種の畫を選びその内容を問ふ。

格言法(フィンク法)——格言を言ひ聞かせその意味を尋ねる。

小話法(メルレル法)——談話を聞かせその主要の點を問ふ。

反應語法(ソンメル法)——質問例百五十を出しその反應語によりて智力の程度を検す。

質問法(シオリー法)——一般認識、計算、時の認識、場所の認識、宗教、歴史、國家的概念、金錢及び交通機關の概念等

德觀念について。

小兒精神狀態検査法(チーヘン法)

- 一、感覺の検査——視覺、聽覺、色覺、味覺、嗅覺、觸覺、溫覺、運動感覺
- 二、感覺の區別——強度及び性質の區別
- 三、感覺に對する單純の情調、甘苦味に對する情調
  - 調音と不調音に對する情調、生殖性情調
- 四、幻覺及び錯覺
- 五、運動機能
- 六、觀念内容——具體的觀念、客觀的觀念、部分觀念、抽象觀念、關係觀念、區別觀念
- 七、記 憶
- 八、注 意
- 九、觀念構成
- 一〇、再生機能に於ける觀念聯合の内容



一一、逆行聯想

一二、結合力の有無による聯合の検査——聯合の存する繪圖を見せて、その意味を正し、或は文章中、故意に文字を脱落せる箇所を造り置きてそれを補綴せしむ。

一三、妄想の有無

一四、過價觀念の有無

一五、感情

一六、行爲

同種発見法(ライヒ法)——同種のもの六種を混じ置きてこれを區別させる、或はカルタを二、三種混じ或は多種の植物性種子を混じ、種類によりて區別させる、

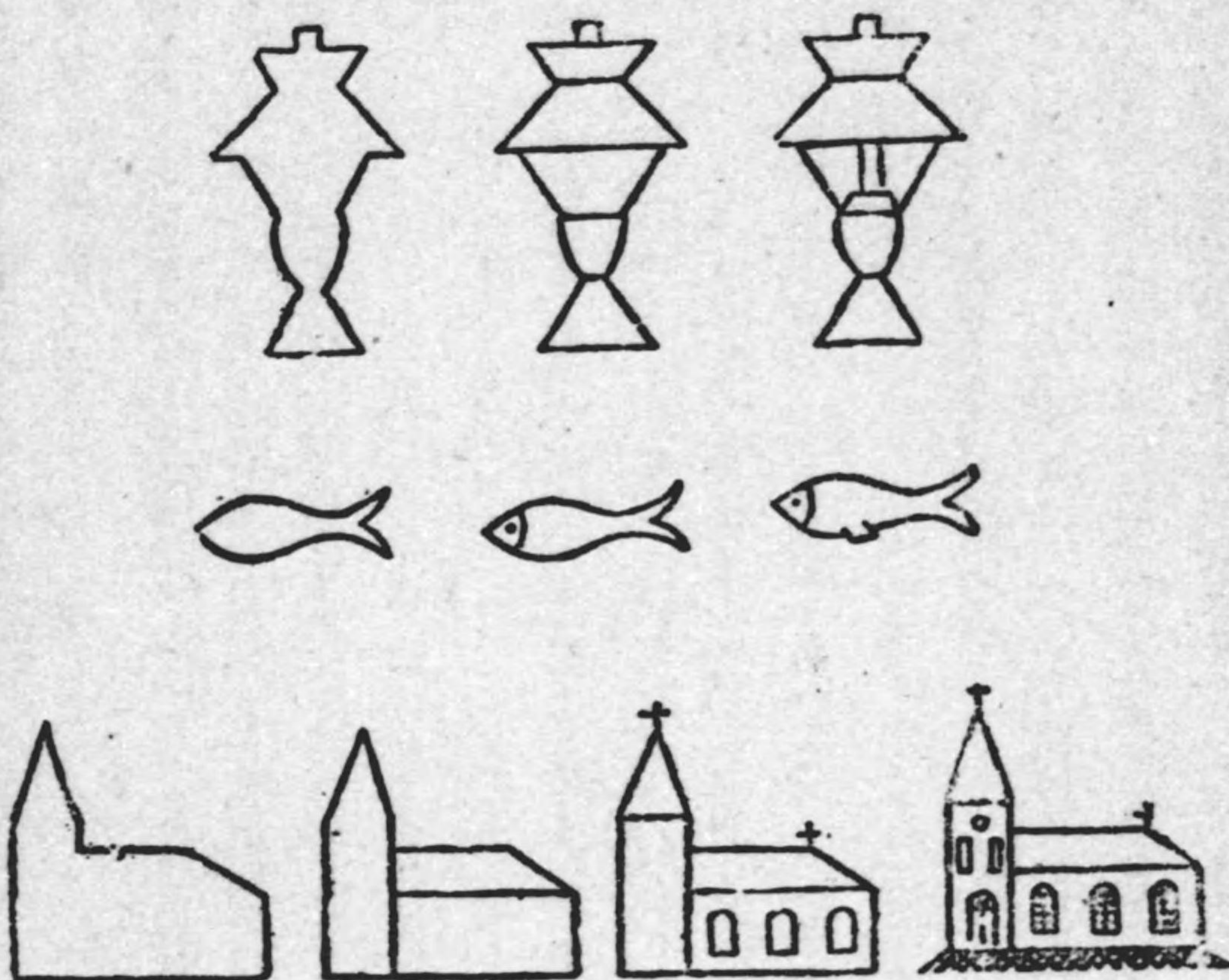
指試験法(リーゲル法)——兒童の一侧の各手指を別々に命名す、例へば右手指に人の名をつける。新しく後に間違なく言へるや否やを検査する。

外國語試験法(ヘンネベルヒ法)——日常多く用ひられる外國語の定義及び抽象的觀念について検査を行ふ、

注意能力検査法II抹殺法(プールドン法)——無意義の語を聯ねその中NミかAミかを發見してこれに印をつけさせる。

思考及聯合作用法(ベルンスタイン法)——机上に九個の圖を置き、第二の机上に多數の圖を置き、この中に第一の机上にあつた圖を混ぜる、受検者は先づ第一の机上有る圖を三十秒間見、然る後一時間、六時間、二十四時間、一週間して第二の机上の圖を見せ、その中より第一の机上で見た圖を記憶せるや否やを検す。

繪圖法(ハイルブロンネル法)——繪圖の簡單なるものより明瞭に至るまでの各階段を示し何れの階段で正しく認識するか又最も簡單なる圖を如何に批判するか見る。



論理的記憶検査——意味ある話をしてそれについての記憶を調べる。

機械的記憶検査——無關係の文字を並べて讀み聞かせ、直に記憶して居るだけを書かせる。例へば







三、二個の一位数を反覆させる  
五、繪畫の説明をさせる

#### 四歳 の 兒童

一、物品の名稱を答へさせる  
三、三個の一位数を反覆させる  
五、男女の性別を言はせる

#### 五歳 の 兒童

一、物質の説明をさせる  
三、四個の一位数を反覆させる  
五、四個の銅貨を數へさせる

#### 六歳 の 兒童

一、紙片を並べさせる  
三、審美的の判断をさせる  
五、繪畫を説明させる

#### 七歳 の 兒童

一、不完全の圖を示し缺けた部を指示させる  
三、五個の一位数を反覆させる  
五、貨幣を鑑別させる

四、コドモの姓を言はせる

二、二直線の長さを比較させる  
四、二個の物質の重量を比較する

二、十綴の語句を反覆させる  
四、方形圖を模寫させる

二、十六綴の語句を反覆させる  
四、一時に三個の命令を與へて、之を遂行させる

二、右手及び左手を示させる  
四、菱形のものを模寫させる

#### 八歳 の 兒童

一、讀みたるものの内容より記憶の度を測る  
三、二個のものを區別させる  
五、二十より一まで逆に數へさせる

#### 九歳 の 兒童

一、具體的物質の説明をさせる  
三、減算法をさせる  
五、繪畫の説明をさせる

#### 十歳 の 兒童

一、讀みたるものの内容の記憶を測る  
三、六個の一位数を反覆させる  
五、貨幣を鑑別させる

#### 十一、十二歳の兒童

一、抽象的概念の説明をさせる  
三、不合理の語句を批判させる  
五、繪畫の説明をさせる  
七、物語中の空所を補充せしむ

十四歳の兒童（これはスタンフオード追加）

二、平易の問題をこかせる

四、四色の鑑別をさせる

二、年月日を言はせる

四、五個の小函を輕重の順序に整列させる

二、二十六綴の語句を反覆させる

四、三個の名詞を文章中に含ませる

二、三個の稍困難なる問題を解決させる

四、三個の名詞を一文章中に含ませる

六、簡単な文章の成句を秩序なく列べこれを正しく直させる

八、韻語を探ぐる



二、五十の定義

二、歸納試問、原則発見

薄い白紙六枚を準備する。一枚を二つに折り、折り目に一つの孔を開ける。次に二枚目のをも一つ多く折る、折目に孔を開ける。孔は二つある。三度目の紙をも一つ多く折りかさねて、同じやうに孔を開ける。それはいくつになるかを尋ねる。第四、第五、第六の紙を續けて行き、一枚毎に一折り加へる、六枚に達した時までに法則がわかれば合格とする。

三、大統領と國王との三つの差異(権力、年限、襲位の方法)

四、質問

イ、町の近くの森を歩いて居た一人の男が、非常に驚いて急に立ち止まつた、それから一番近い巡査のまゝころへかけつけて、たつた今木の枝から何か下つて居るのを見たま申しました、それは何でせう。

ロ、私の隣りの人の處に變つた訪問客がつかましました、初めに醫者で次は法律家で、次は牧師(坊さん)が來ました、何事が起つたのでせう。

ハ、生れて初めて町へ出て來たある印度人が一人の白人が街路を乗つて行くのを見ました、白人が彼の傍を乗り過ぎる時に印度人は言ひました「あの白人は愚け者だ、彼は腰をかけたが歩いて居る」ま、この印度人が、白人を腰かけながら歩くと言つたのは、一體白人が何に乗つてゐた爲でせう。

五、算術的推理

イ、成人の俸給が一週二十弗であつて、彼が一週十四弗消費するますれば三百弗貯めるにどれ程永くかゝるか。

ロ、二本の鉛筆の價が五セントますれば五十セントで何本の鉛筆が買へるか。

ハ、反物一ヤードが十五セントますれば七フィートは何程ですか。

六、時計の針を反對にするこゝま

今六時二十二分過ぎです、長い針と短い針とがまここにゐるか想像して御覽、それからその時計の二つの針が互に場所をまひかへたら何時何分ですか、更に八時十分過ぎ及び二時四十六分に針を置いたものまとして試問を繰り返す。

七、七位數の反覆(二二八三四五九ま九七二八四六五)

### 智 能 率

智能率ま人口百人中の割合

人口の割合	智能率	段階
0.25	140 以上	天才又は準天才
6.75	120-140	最優秀
13.00	110-120	優秀
60.00	90-110	正常
13.00	80 - 90	劣等
6.00	70 - 80	最劣等
0.75	50- 70	輕愚
0.19	25- 50	癡愚
0.60	25又は20以下	白癡

(ウツド・ロウ氏測定)

ターマン氏がスタンオードに於て、アメリカ生れの兒童について測定した結果は左の如くである。



智能率	百人に対する割合	智能率	百人に対する割合
一四五—一三六	〇〇五	一三五—一二六	二・三〇
一二五—一一六	九・〇〇	一一五—一〇六	二二・一〇
一〇五—九六	三三・九〇	九五—八六	二〇・〇〇
八五—七六	八・六〇	七五—六六	二・三〇
六五—五六	〇・三〇		

**精神薄弱兒童**

**精神薄弱兒の年齢及智能的分類**

精神薄弱兒の知能年齢又は智能率によりて分類したる代表的ものは左の如くである。

姓名	白痴	癡	愚	魯	鈍
ビネーシモン氏	智能二歳程度迄	智能七歳程度迄	智能八乃至一〇歳程度迄		
ターマン氏	智能三歳程度迄	智能七歳程度迄	智能八乃至一歳程度迄		
クレベリン氏	智能率二〇乃至二五迄	智能率二五乃至五〇迄	智能率五〇乃至七〇迄		
ワイガント氏	智能六歳程度迄	智能七乃至一四歳程度迄	智能一五乃至一八歳程度迄		
	智能七歳程度迄	智能七乃至一六歳程度迄	智能一六乃至二一歳程度迄		

**落第**

**落第の原因**

- 一、學童自己に関する原因
  - イ、智力薄弱のため
  - ロ、病氣又は虚弱のため
  - ハ、怠惰放逸のため
- 二、教師に関する原因
  - イ、教師が度々代つたため
  - ロ、教師と兒童との間に特別不良の關係あるため
- 三、學校に関する原因
  - イ、學校を度々轉じたため
  - ロ、學校を多く休んだため
  - イ、生活に變動ありしたため
- 四、家庭生活に関する原因
  - ロ、近親者の不幸死亡等のため
  - ハ、家庭勞働のため

**落第生の取扱**

落第生を適當に取扱ふには上記の原因の何れに當れるかをよく調べ除き得る原因は之を除き、當該兒童に最も通ずる處置をすることが必要である。徒に譴責することは避けなければならぬ。



## 精神薄弱兒

二四

精神薄弱兒は主として智力の缺陷あるものを名づけて云ふのである。これに属する兒童は適當の境遇に在る間は生活の責を得べきも、正常人と同列にありて競争することは出来ぬ。自己に關する事件でも巧に之を處理することが出来ないのである。精神薄弱兒はその智力の程度によつて次の三種に區別する。

魯鈍 (Dull) 智能率四一乃至七〇 これは生來又は幼時よりの精神缺陷の程度癡愚に至らぬもので、普通のものよりも能力が低い、故に指導監督を要するものである。

癡愚 (Imbecile) 智能率二一乃至四〇 これは生來又は幼時よりの缺陷の程度白癡に至らないもので、魯鈍よりは低度のものである。被教化能力はもつて居るけれども、自己に關する事件を處理することは出来ぬ。

白癡 (Idiot) 智能率〇乃至二〇 これは責任能力を有せず、防禦力なく、生活に要する條件でも自己の力で之を充たすことの出来ないものである。

## 精神薄弱兒教養法

精神薄弱兒童を教養するには多方面から不斷の注意を要する、その要點は左の如くである。

- 一、原因明にして治療し得らるものは、なるべく早く治療することが必要である。
- 二、精神薄弱の状態は身體の異常に本づくことがあるから、その場合は身體の處置が必要である。
- 三、精神薄弱兒にそれに似て然らざるものはその取扱を區別する必要がある。
- 四、精神薄弱兒は魯鈍、癡愚、白癡の程度に應じてその處置を區別する必要がある。

五、右の區別は學校に於ても家庭に於ても必要である。

六、學校では精神薄弱兒の學級を編成し、白癡は別に收容して養護する白癡院を必要とする。

七、學校の外に精神薄弱兒を收容する治療教育院がある、これは最も進歩した施設である。

八、精神薄弱兒の教養を徹底するには醫家と教育家との協力を必要とする。

九、教養の任に當るものは特殊の智識と經驗あるものでなければならぬ。

一〇、精神薄弱兒の取扱を誤るゝ生活の向上を見るべきが出来ぬのみならず、不慮の禍を招くことがある。

一一、教養に方りては慈悲を主とし常に忍耐して持久することが肝要である。

一二、賞罰を行ふに方りては甚大の注意を拂ひ、決して輕卒であつてはならぬ。

## 癡愚兒童の教養

癡愚の兒童は白癡の如く身體の養護に努力する事柄が少ないから、教育方面に努め得る點がかなり多い。秩序を保つこと、清潔に注意することは白癡兒童に對すると同じに必要である。不良習慣を矯正して良習慣を得るやうにしなければならぬ。智能の教育は成るべく、直觀的を主とし、抽象的のものを避け、具體的に行ふと効果が多いのである。又作業教育を行ふことは、新種の兒童に對して極めて必要のことである。新しくして兒童の最も秀でたる才能を發揮し、職業的生活の準備をなすやうに導くことが必要である。

運動の練習を行ふことは、實際的作業の基礎を造る所以である。癡愚の兒童は感情の異常を伴ひ、且意志の強固ならぬ場合が少なからずある。斯かる場合には効果あることを確めたる外は、濫に罰を加へてはならぬ。なるべく兒童が自ら反省する機會を與へ、自制的習慣を養ひ、新しく自立の域に進ませるやうに努めることが必要である。

二五



## 魯鈍兒の教養

魯鈍の兒童は推理、判斷等の智能に乏しい。抽象的知識をこの種の兒童に深からしめんとすることは誤である。故に成るべく具體的の知識を興へるのが適當である。故に初等の教育はあまり困難でないが、高等のものに至るに教授にいろいろの困難が起る。斯かる場合に両親の虚栄心の犠牲となることが多い。これ等の兒童に對しての適當なる教育機關は補助學級及び補助學校である。就中、治療教育院は最も効果の多い教育機關である。これは身神の兩方面から教養の目的を達することを努め得るからである。

魯鈍兒童は理解、判斷、決斷等の能力に乏しいから周囲の人々の要求に應ぜぬことが少くない。その結果不従順のものと見做れて周囲の人々より苛酷の取扱を受けることがある。誤れる懲罰は徒に憎惡、嫌忌の精神を増長し、反抗の心を起して教育的効果を見ることを望まれぬ。魯鈍兒童の精神能力に餘る職業を強ゆることは何等の利益がない。むしろ簡單にして兒童が興味と慰安を感じつゝ従事し得る職業が最もよい。かくして兒童は獨立的精神を養ひ得るに至るのである。

## 白癡の教養

白癡には重度、中度及び軽度の三種がある。

### 一、重度の白癡

重度の白癡に對しては精神的教育を施すことは出来ない。新種の白癡は生活に必要な動作が出来ないから、飯食は素より大小便の排泄に至るまで他人の補助を藉らねばならぬ。即ち白癡院に於ても家庭に於ても唯養護を加へるに止まるのである。

### 二、中度及び軽度の白癡

中度及び軽度の白癡に對しては部分的に簡易の教育を行ふことが出来る。しかし主として生活の方法を改善することを努めるに過ぎないのである。故に規則正しき生活をする必要がある。例へば食時、就寢、起床、入浴等の時間を一定するが如きこれである。清潔の習慣は生活上極めて必要の故これを教へる必要がある。例へば大小便の始末、入浴、身體を洗ふこと、衣服を清潔に保つこと等である。白癡の有する興味を發見してこれを教育の手がかりとすることは最も適當である。そしてその興味を中心として教育を施すことが肝要である。白癡は自利心に乏しいから時として劇しい衝動的運動をすることがある。この場合は心の轉換がよい。發揚性のものは持續して臥褥させる方がよい。運動の練習及び五官の練習は極めて必要である。これは生活の進歩向上を謀る上に於て、有力な基礎をなすからである。

## 精神低格兒童

### 精神低格兒童

精神低格兒童は主として性格の缺陷あるものを指していふのである。主なる缺陷は次の如くである。

一、感情の缺陷 この方面では憂鬱、爽快、鈍麻、衰弱、痙攣状態、失神、驚愕、倒錯、動物虐待等の異常が現はれる。

二、意志の缺陷 これには亢進、減弱、食慾異常、色情異常等が現はれる。



三、智力の缺陷 精神低格兒童は主として感情及び意志の缺陷あるものを稱するのであるが、これと同時に智力の缺陷を伴ふ場合が少くない。

コツキは精神低格兒童を次の如く分類した。

- 一、一時性精神低格兒
- 二、持続性精神低格兒 これには生來性のものと後天性のものがある。
- テオドル、ヘルレルは持続の程度に応じて精神低格のものを次の如く分類して居る。

- 一、不變性のもの
- 二、前進性のもの
- 三、退歩性のもの

精神低格の種類は極めて多いから刻然たる分類をすることは困難である。實際上から分けるに次の如くするのが便利である。

- 一、神經質
- 二、ヒステリー性低格
- 三、癲癇性低格
- 四、變質性低格

### 變質性低格

變質性低格は想像、感情及び意志の方面に著しい缺陷を現すものを名づける。その主要なる徴候は次ぎの如くである。

想像は實力を超えて無謀の方向に進む。 強迫観念が往々ある。

感情は時として爆發性を帯びることがある。

喜怒哀樂に對して無感性になることがある。この場合は怠慢にして無爲の状態に陥る。

精神抑制状態となり、これが永續し、遂には自殺することがある。

浮浪癖に陥ることがある。衝動的行為の盛なることがある。其の結果盜竊に陥ることがある。

蒐集癖を見る。

動物虐待。

精神生活の不安定。

性慾異常。

放火、殺害等の行為を往々見る。

無責任。

非倫理的行為。

### 神經質

神經質とは精神能力の調和を缺き、一定の缺陷を伴ふものである。

#### 神經質の原因

(甲) 内的原因 遺傳的關係、先天性障碍等

(乙) 外的原因

- 一、一般生活によるもの (例、賞罰の不當、交友、讀物、談話、性的關係、生存競争、睡眠不足等)
- 二、毒物
- 三、外傷
- 四、病氣
- 五、思春期

#### 神經質の状態

一、作業能力の減弱

二、刺戟性薄弱

三、暗示性強烈



- 四、自信力の缺乏
- 五、氣分の變換
- 七、異食
- 八、睡眠の障害
- 一〇、心臓及血行の障礙
- 一一、胃腸の故障
- 一三、生殖機能の障礙
- 一四、筋肉及び皮膚の異常
- 一六、營養障害
- 一七、反射機能の障礙
- 六、強迫觀念
- 九、苦悶
- 一二、眩暈及び頭痛
- 一五、膀胱の障礙
- 一八、運動の障礙

神經質兒童の取扱

- 一、食物 動植物性食餌を適當に與へること。
- 二、嗜好品 酒、煙草、珈琲、濃茶、其他刺激性嗜好品は成るべく避けること。
- 三、住居 新鮮の空氣の土地に住居すること。都會生活のものは祭日、休日等の際にはなるべく郊外に出るやう努むること。
- 四、水の應用 身體強固の目的にて水の應用を試むるがよい。例へば冷水浴、冷水摩擦、水泳、溫浴等。
- 五、皮膚の強固 皮膚摩擦、日光浴等。
- 六、身體の練習 體操、運動、旅行、遠足等。
- 六、睡眠 安眠し得る方法を講ずること。
- 八、性感に關して注意すること。
- 九、惡習慣を矯正すること。
- 一〇、撲撲心を善導すること。

- 一一、氣分を善導すること。
- 一二、著しい刺激性の讀物に注意すること。
- 一三、意志をつよくすること。
- 一四、甚だしい感動性の談話に注意すること。
- 一五、強い刺激性の娛樂、賭け事、勝負事を避けしめること。
- 一六、試験のために過度の身神皮勞をさせぬやう注意すること。
- 一七、神經質又は不良性を帯びたるものと交友させぬこと。
- 一八、單純生活を獎勵すること。
- 一九、賞罰に注意すること。
- 二〇、環境をよくすること。止むなき場合は環境を變へること。

ヒステリー性低格

この性格に特有の性格は次の如き状態になつて現はれる。

- 一、想像力の亢進
- 二、自己中心の觀念
- 三、感情の異常(亢進、轉換、倒錯)
- 四、虚言
- 五、犯罪行爲
- 六、自我
- 七、仿徨
- 八、自殺



### 癲癇性低格

癲癇は意識が消失して墜墜を起し、口より泡を吹いて卒倒する病氣で、児童期に現はれるものである。發作の程度により大癲癇と小癲癇とに分ける。癲癇を病める者に固有の性格がある。これを癲癇性性格と名づける。

- 一、智力の侵されて居ることがある。
- 二、感情は激して、往々無謀のこゝを行ふ。
- 三、残忍性を帯びて居る。
- 四、喧嘩口論をする。
- 五、性慾の亢進がある。
- 六、氣分が換りやすい。
- 七、行儀が著しく正しい。
- 八、事物を整理するこゝを好む。
- 九、言語、應待極めて鄭重である。
- 一〇、蒐集癖がある。

### 彷徨 (出あるき)

彷徨とは統一した目的もなく、街路又は其他を徘徊するものを云ふ。その原因を四つに分ける。

- 一、遺傳的原因 遺傳的に惡性の性質を有する場合
  - 二、本能的原因 何人にも本能的に彷徨の傾向がある。之が増進した場合
  - 三、病理的原因 精神發育制止、中毒等のもの
  - 四、偶發的原因 叱責、不知、誘惑、買喰、家庭外の生活に慣れたため
- 其他冒險心等によるもの

### 彷徨者の處置

- 一、原因を探究してそれを除くこゝに努める。
- 二、病的原因で彷徨するものはその病氣を治療するこゝが肝要である。
- 三、偶發性のもものは、自動的か他動的かに注意し、もし他動的であればその環境より脱せしめるこゝが必要である。又學校放課後、外出の際歸宅が屢々後れるやうであればその状態をよく調べ、彷徨の盡防をしなければならぬ。

### 放 火 癖

火は人生に離れるこゝの出來ぬ關係がある。その結果兒童が火を享樂するこゝも少くない。例へば、花火の如きものである。又火の燃え上る勢は刺激性活動性であるため、兒童の興奮を招き一種の快感を生ずるやうなこゝもある。しかし火の癖が増進して放火に至るこゝ、その害は測り知るこゝが出來ない。

### 弄火、放火の原因

- 一、兒童の愛火性 これは人類の祖先より火を好む性質が遺傳的に現はれたものであらう。
  - 二、病的要因 兒童が精神薄弱なるか、精神低格の場合に弄火、放火を起すこゝがある。衝動的のこゝもあるし、又有意的の場合もある。多くの場合、思慮に乏しく経験なく、放火によつて起る災害等についての顧慮なきために起るのである。
  - 三、特殊の動機によりて これに屬するものは、復讐、怨恨、懷郷心等に因る放火である。尙ほ、青年期になるこゝ窃盜の目的で放火するこゝもある。
- 弄火、放火に對する注意



- 一、精神發育不十分なるために起る弄火、放火に對しては、これによりて起る災害の恐るべきを悟らす必要がある。
- 二、精神異常の場合では僅かの原因例へば復讐、怨恨、懷郷心で放火することがある。故にかゝる兒童に對しては常に警戒する必要がある。
- 三、放火狂のものは一定の場所に收容するやうにしなければならぬ。
- 四、弄火、放火の癖あるものは境遇を變へ、火を弄ぶ機會より遠ざけることが肝要である。その一策として作業に従事せしめることがよい。

### 性慾異常

性慾異常は精神障礙の中で重要視せられるものでこれが當人の道義、性向、社會的感情等を左右することが少からずある。性慾の異常には次の種類がある。

- 一、性慾異常 (Anesthesia sexualis) 生殖器の機能的衝動の起らぬもの
- 二、性慾倒錯 (Parasthesia sexualis) 異常の刺激によりて性慾の興奮するもの。これに次の二種がある。
  - (一) 異性間性慾倒錯
  - (二) 同性間性慾倒錯
- 三、性慾亢進 (多淫) (Hyperparasthesia sexualis) 性慾が機能的精神的五官的刺激によりて異常に興奮するもの
- 四、性慾逸期症 (Paradoxia sexualis) 普通の場合には性慾のない時期にその發するもの

### 盜

### 癖

兒童の盜癖の誘因及び原因は左の如くである。

- 一、所有權の觀念不十分なるがために
- 二、特殊の動機によりて
- 三、習慣性によりて
- 四、病的原因によりて

所有權の觀念不十分なるがために盜むもの

- 一、他人の持つてゐるものは自分の自由にしてもよいと思ふて
- 二、誰も手をふれずに居れば、自分のものとして差支ないと思ふて
- 三、一室に多人數住み共同的に物品を使用して居るやうな場合に自他の區別をつけることの困難なるがために
- 四、自己擴張の慾望によりて
- 五、蒐集慾のために
- 六、好奇心によりて

特殊の動機によりて

- 一、物品を多く持ちて威張り又は他人に與へて歡心を買ひ、或は自分がほしくても所有が出来ぬために
- 二、嫉妬、怨み等のために
- 三、悪戯のために
- 四、窮乏のために
- 五、模倣によつて
- 六、習慣性に盜むもの



- 一、盗み易き性質のもの、例へば意志よわきもの、思慮淺きもの、蒐集癖の甚だしきもの等。
- 二、盗みによりて目的が達せられた時、例へば盗んだ金銭で好きな活動寫真館へ出入することが出来たやうな場合。
- 三、家庭教育のよくないとき、例へば兒童の盗みを知りつゝこれを庇護する如き。

病的の盜癖

- 一、窃盜、これは一時性のものゝ反復性のものゝがある。
- 二、性慾異常に伴ひ一時性に他人のものを盗む。
- 三、兒童の盗みに對する注意

- 一、兒童に所有觀念の十分發達して居ないために起た盗みであれば漸次所有權の觀念を得させることが必要である。
- 二、蒐集本能、自己擴張慾のために盗みをする場合にはこれを叱責するよりも、善導する方がよい。好奇心に本づく盗みも同様の處置をこる。
- 三、惡戯や虚榮のために起た盗みは餘程注意して矯正する必要がある。
- 四、模倣の盗みは早く訓戒してやめさせなければならぬ。
- 五、習慣性の盗みはこれを矯正するのに骨が折れる。先づ原因を除去することに努め、規律正しき生活を行ひ、意志を強くし、自製の精神のおこる機に注意せねばならぬ。又兒童の環境を換へることも一策である。
- 六、病的のものに對しては先づその原病の治療を謀ることが肝要である。
- 七、病的に然らざるに拘らず盗みが習慣性となるを矯正に困難が伴ふから成るべく早く矯正に努める必要がある。

恐怖

恐怖は自己保存の本能が防禦的の形式をこる時に起る情緒で、苦痛を伴ふものである。恐怖には生理的の病的の二種がある。

(甲)生理的恐怖 これには次の三種がある。

- 一、本能的恐怖
- 二、經驗的恐怖
- 三、想像的恐怖

(乙)病的恐怖 病的恐怖をすべてフォビア(Phobia)と稱す。又迷信によりて起る恐怖もこの中に加ふべきものである。

レチス氏(Ritchie)は病的恐怖を次の五種に分類した。

- 一、無生物に關する恐怖
- 二、生物に關する恐怖
- 三、場所に關する恐怖
- 四、天象に關する恐怖
- 五、疾病に關する恐怖

虚言

虚言には生理的のものゝ病的のものゝがある。矯正を要するものは病的のものである。虚言につき諸家の分類を左に示す。

スタンレーホール氏の分類

- 一、想像によるもの
- 二、義侠心によるもの

フェリアニ氏分類

- 一、本能並に運鈍よりするもの
- 二、自己保護のためよりするもの



三、利己心によるもの  
四、病的素質によるもの

寺田文學士分類

一、兒童精神發達上有り勝ちのもの  
二、特別性動機によるもの  
三、習慣のもの  
四、病理的原因によるもの

虚言に對する教育上の注意

虚言に對する教育に際しては次の諸點に注意を要する。

- 一、虚言の原因を探究することが必要である。
- 二、空想と現實との混同に本づく場合は何等の企圖なきもの故兒童の智力發達につれ、自ら斯種の虚言は無くなる。
- 三、好奇心による虚言はその害を説きて訓戒する。
- 四、企圖的虚言(例へば利慾、辯解、虚榮、恐怖等)は十分に戒飾しなければならぬ。
- 五、虚言に對して體罰の手段に出でては効果は殆き得られない。

惡 戲 (いたづら)

惡戲は兒童が興味をもつて行ふ一種の遊戯に外ならぬ。故に惡戲に本づきて起る結果の如何等に關しては、兒童は毫も

豫想せぬ。惡戲は物品を檢し、植物を傷け動物又は人に危害を及ぼすが如き性質のものである。惡戲の原因は本能、虚榮心、興奮、復讐、冒險、模倣等である。惡戲を行ふ兒童はその惡戲なることを自覺せず或は自覺しても極めて軽く解釋する場合が多い。故にこれを矯正するには蓋に叱責するよりも寧ろ善良の遊戯をなし得る機會を場所を與へる必要がある。病的惡戲のものに對して特殊の方法をこらねばならぬ。年齢や長じたるもの、特に早熟者異常兒童にありては異性に對して惡戲をなすことがある、これを放置するに益々劇しくなり遂には不良兒となり終るこゝが屢々あるから、これ等の人々に對しては特段の注意を要するのである。

不 良 少 年

不良少年とは公共の秩序を紊し善良の習慣を破り反社會的行爲をなすものを稱す。

【不良少年の行爲】 十八歳以下の不良少年一千人につき、不良行爲を調査したる結果次の如き成績を得た。(ヒレー氏)

窃 盜	逃 走	無 斷 缺 席	執 拗
屋 外 睡 眠	遊 情	夜 盜	兇 器 爭 鬪
暴 行	性 交	手 盜	性 慾 倒 錯
飲 酒	疳 癩	破 壞 的 行 動	賭 博
浮 浪	詐 造	拘 摸	殘 忍
放 火	詐 偽	火 器 玩 弄	狠 戾
乞 食	掠 奪	虛 偽 告 訴	陰 謀
列 車 妨 害	自 殺 企 圖	殺 人	列 車 破 壞



海軍逃走  
殺人計畫

コカイン使用

阿片使用

殺人補助

不良少年の起る原因

不良少年の起る原因は複雑であるがその主なるものは次の如くである。

遺傳	出生前の不良境遇	出生後の疾病	悪しき家庭
不良少年の心理	社會的の悪しき感作		
空想癖	虚言	智能薄弱	意志薄弱
感情異常	輕卒	智識と道德との不調和	宗教的情操の缺乏
強迫觀念	衝動行爲	性慾異常	早熟

### 少年犯罪

原 因 少年犯罪は悪性遺傳あるものに起り易い。後天的には環境の不良、貧窮、悪友、誘惑、養育者の虐待、家庭不和等の場合に起る。

犯罪の種類 少年犯罪は衝動的に起る事が多いから、従つて、食慾、性慾、娛樂等に關するものが主である。しかし冒險、摸擬、悪戯等の動機で犯罪するに至るものも少くはない。

取 扱 少年犯罪者を取扱ふには先づ個人についての詳細なる調査と觀察を必要とする。我國の現行刑法では十四歳未満のものは犯罪行爲のものでも之を罰せず、少年審判所、少年院、感化院の如き特殊施設に於て改善を圖るこ

になつて居る。少年犯罪のうちには偶發的の行爲があるから、斯かるものに對して矯正の法宜しきを得れば全く改善し得るこゝが出来る。

### 少年裁判所

少年の犯罪は將來重罪を犯す基となるこゝがある、少年には親権者と特殊の關係もあるし身神教育の中途にあるもの故これを成人のものと同様に取扱ふこゝは諸種の弊害があるので特殊の處置を爲るために出來た制度が少年裁判所である。

少年裁判所制度の創始は米國であつて、一八七八年にマサチューセツツ州で少年考試法が定められた。それから各州に行はれるやうになつた。その實施法は主として家庭式で、専門の單獨判事が處理し、辯護人も、檢事も要せぬのである。判事は自由の裁判を行ひ、譴責し、或は刑の執行を猶豫し、又は家庭に引寄せ又は感化懲戒に附するこゝもある。

英國は一九〇八年に少年法の中に少年裁判に關する規定を設けた。ノルウエーは一八九六年少年に關する後見委員會を規定しデンマークはノルウエーに類した制度を一九〇五年に規定した。獨逸は一九〇八年にフランクフルトアムアインに少年裁判所を設けた。伊太利及匈牙利では一九〇八年に少年裁判所を設立した。フランスは一九一二年に少年裁判所に關する規定を造つた。ベルギーは一九一二年少年保護法を制定した。

少年裁判所の目的は犯罪少年に刑罰を科するのではなくこれを保護改善するに在るから普通の裁判制度をこゝに及ばぬ。故に檢事がこれに關與する必要もない。少年犯罪者の處分は譴責、懲戒、拘留、監視付放免、答刑、家庭内監禁、勞役等國々によつて同一ではない。



## 精神低格兒童の教養

精神低格兒童は主として感情及び意志の缺陷あるものであるが、智力の乏しい場合、または身體異常の存する場合も多い。故に斯種兒童は治療教育院に於て、身體の養護、感情及び意志の淨化、智能に應じた教育を施すことが必要である。身體的處置は素より醫家の力を藉らねばならぬ。即ち身體の缺陷を除去し、營養を適當に與へ、睡眠を安靜にし、作業と休息との調和を保ち、過不足なき運動を行ひ、以て身體の健康状態を増進するやうに圖るのである。精神教育の方面からは精神療法と作業療法とを主とすべきである。

## 精神療法

精神分析により兒童の精神生活を分析的に考察し、これに對する説得療法又は暗示療法を行ふのである。此等の効果を收むるには素より治療教育家が兒童に信頼せらるることを必要條件とする。兒童が欲するところを治療教育家に吐露するやうにせねばならぬ。すべて強迫的方法は効果を見ることは出来ぬ。

## 作業療法

兒童が好む仕事を課して持久力を養ひ、知識を増進し、病的觀念を除去し、職業的能力の増進を圖るのである。作業療法には手工、圖書、園藝、農事、工業、遊戯、體操等の方法がある。

## 性格異常兒童の取扱上の注意

教養者が兒童に接すること、不斷の忍耐をなすこと、良習慣を得させること、始めより多くを期することなきこと等

注意する必要がある、殊に賞罰に對しては特別の顧慮を必要とする。若し賞罰を誤るときは、たゞに教育の効果を收め得ざるのみならず、却つて不慮の禍を招くことがある。感動の爆發の如きは賞罰の不當に原因しておこる場合が多いのである。

## 遺傳

## 優生學と遺傳

遺傳の研究は諸種の實驗を積むに至つて進歩した。その結果これを人間の改善に應用しやうと企てるに至つた。これを最初に唱道したのはフランシスコ、ゴルトンであるが同氏はこれをユーゼニクス (Eugenics) 即ち優生學と名づけた。優生學は身神共に將來の國民を改善し、人爲によりて悪性の事項を廢除しやうとするのが目的である。ゴルトンはこの目的で研究所をたてた。今日ではある種類の人種の繁殖を制限し一面には他の種類の人の繁殖を謀り更に配偶者の選擇に注意することを中心として行つてゐる。優生學は遺傳の現象を根本的に研究して、之を人類に應用して禍根を未然に防ぐ方法を講ぜなければならぬ。優生學の目的を達し、人類の退化現象を防禦するには先づ教育の根本的革新を必要とする。又社會の改良、優生學の普及等は必須の條件である。語をかへて云へば人類百般の各方面から合法的の方法を以て協力することが必要である。



### 酩酊時の受胎

酩酊時に受胎したる場合はその子に變質の現はるゝことが多いは、古來證明せられた所である。リッピツヒはこの種の小兒九十七人について調査したが、その中異常のないものは僅十四人で、他の八十三人は疾病にかゝつて居ることを證明した。その中には次の如きものが居つた。

- 二十八人は癩癧
- 六人は腦炎
- 六人は胸痛
- 四人は萎黃病
- 三人は發育不全
- 三人は肺癆
- 三人は萎縮
- 一人は拘攣病
- 一人は腦水腫

受胎當時の酩酊は癩癧を生ずることが多いと云はれてゐる。デモーは三十六人の癩癧患者について検査したが、其の五人は受胎時に父が酩酊してゐたことを證明した。受胎時の酩酊は、又愚鈍、白癡、精神病的性格等の如き變質性徴候を有する子を生むに至ることも證明せられて居る。

## 體 質

### 頭 顱 指 數

頭顱を算出するには、先づ頭顱の縦徑及び横徑を計り、次に左の式を用ふ。

縦徑 鼻根より後頭外結節に至る距離(兩脚器)

横徑 左右頭頂結節の距離(頭蓋計)

指數  $\frac{\text{縦徑} \times 100}{\text{横徑}}$

指數の多寡により頭顱を左の如く分類す。

長 顱	七五仙米以下	中 顱	七五—八〇仙米	短 顱	八〇仙米以上
-----	--------	-----	---------	-----	--------

長顱は精神異常兒童に於て最も多く、目撃される頭形である。

### 體 質

體質は身體及び臟器の機能的性質の意味に解せられ、又は外來の影響に對抗する能力及びこれを調節する生體の機能的状態をも解せらる。體質に關する見解及び分類は古來多くの學者が企てたところである。體質は先天性のもの即ち遺傳型(成系型)のみならず個體の生活中に獲得した性質を後天獲得として別にするものも、後獲性をも併せて論ずるものもある。故に廣義の體質は體格(姿質)と氣質(稟質稟賦)を併せたものを稱するのである。姿質は普通、強健質、癆瘵質、卒中質等に分類し、又、呼吸器型、消化器型、筋肉型、腦型の四型に分類する場合もある。何れにしても種々の移行型があり得るのである。

### 異 常 體 質

異常體質(體質異常) (Abnorme Konstitution) は刺激に對し特殊の反應を起す性質のもので、これは疾病にかゝり易い異常體質は全身性のもので局所性のものである。全身性ものは普通これを左の如くに分ける。

- 一、胸腺淋巴體質 (Status thymolymphaticus)
- 二、發育不全體質 (Status hypoplasticus) (Bartol)



- 三、滲出性素質 (Exudative Diathese) (Geryy)
  - 四、關節素質 (Arthritismus)
  - 五、神經病體質 (Neuropathische Konstitution)
  - 六、無力體質 (Arthenische Konstitution)
- 異常體質者の症状は主として皮膚、粘膜、淋巴腺、血液、神経内分泌臓器、結締組織に現はれる。異常體質は治療上からも豫防上からも特に注意を要するのである。

### 滲出性體質

この體質は小兒期に多く見られるもので皮膚及び粘膜に滲出性炎症を起し易いものを稱する。これには羸瘦過敏性のものである。肥満遲鈍性のものである。滲出性體質のものは初生兒時代に見るころの生理的體重減少を缺くことがある。即ち出生時の體重のまゝにて一定時増加せずに居る。それに反し體温は往々動搖して生理的範圍を越ゆることがある。皮膚は薄弱にして蒼白、濕疹に罹り易い。一度これにかゝるに容易に治癒せぬ。舌の表面は地圖狀になつてゐる。その他發汗が多量である。滲出性體質の乳兒は消化不良便を排泄することが多い。即ち便に顆粒を含むことが多く、綠色を呈することがある。斯かる場合でも特に授乳を制限するに及ばぬ。咽喉の加答兒はこの種の體質に起り易い。その結果氣管支炎に移行することがある。淋巴腺の腫脹を見ることも多い。この體質のものは營養の佳良を圖り、人乳を以て保育することが第一條件とする、早くより野菜スープ、重湯を與へて漸次離乳をする。概して、感胃に侵され易いから寒冷の時は溫暖地に轉するがよい。殊に喘息性氣管支炎等のものに對しては尙更である。濕疹のあるときは直に治療を要する。滲出性體質のものは將來結核に侵され易いから、この點については専門家の監視を要するのである。

### 神經性體質

神經性體質 (Neuropathische Konstitution) は神經感受性の強いもので多く小兒に見るころの異常體質である。その一般状態は次ぎの如くである。

- 一、啼泣 特別の原因なくしてよく泣く、夜啼症、疳の蟲、驚風の蟲等の名あり。
  - 二、睡眠 不足
  - 三、下痢
  - 四、食慾 不振 好き嫌ひ多く、又食量の多寡不定のことが多い。
  - 五、嘔氣、嘔吐
  - 六、異食 症 普通人の食はざるもの (灰、土、線香、炭等) を嗜む。
  - 七、反射機能異常
  - 八、尿 異 常 尿の排泄回数が異常に多く、又夜尿を伴ふ。
  - 九、行動 異常 注意力少く、意志も弱い。
  - 一〇、血管 異常 脈數に變化起り、顔面の色變り易く、發汗が多い。
- 神經性體質のものに對して、取扱上注意すべき點は左の如くである。
- 一、健康地に住居させること
  - 二、適當の運動を行はせること
  - 三、水治法を應用すること



- 四、滋養ある食餌を選び、十分に咀嚼させるやうに奨励すること
- 五、嗜好品の濫用を避けること
- 六、規則正しい生活に慣らせること
- 七、單純生活をさせること
- 八、善良なる環境で教養すること
- 九、意志を強くすること
- 一〇、家庭教育の方針を一定すること

### 無力性體質

無力性體質のものはその營養狀態概ね不良で、筋肉の緊張少く、従つて活潑の行動をまりにくい。皮膚は蒼白で且薄弱である。胸廓は淺くて長い。胃はアトニーを起し、腹部は膨滿して居る。全身發育不十分にして骨及び筋肉弱く性徴の發露後れ、所謂インフアンチリズムスの症狀を呈することがある。

無力性體質のものが諸種の疾病に對して抵抗力の弱いことは勿論である。殊に肺結核に侵されることが多い。故に無力性體質のものに對しては郊外散策、體操等を奨励し、新鮮なる空氣中にて生活させ、滋養ある食餌を與へ、日光浴、水治法等を應用するがよい。

### 精神病的體質

チーヘン (Tehen) は慢性の経過をこる精神病的狀態を總括して左の如く分類した。

- 一、神經衰弱性精神病的體質
- 二、ヒステリー性精神病的體質
- 三、癲癇性精神病的體質
- 四、雙踏病性精神病的體質
- 五、パセドゥー氏病性精神病的體質
- 六、遺傳性變質性精神病的體質
- 七、外傷性精神病的體質
- 八、中毒性精神病的體質

### 胸腺淋巴體質

この體質の特徴は胸腺腫大、淋巴裝置の増殖、血管系統の發育不全、一定臓器の淋巴球の浸潤等である。この特徴を見るのは多くは幼兒及び年長兒で乳兒に少い。即ち外觀は皮下脂肪が多いけれども弾力が少い。時としては身體は細長である、身體の發育は不全のことが多い。骨の發育は概ね後れ勝ちで且弱い。胸腺は概ね肥大して居る。淋巴腺のうちでも頸腺、後頸腺、腋窩腺、扁桃腺の腫れて居るのが容易に證明される。脾や肝も大きくなる。胸腺淋巴體質のものは特別死の原因を認めずして急に死亡することがある。所謂胸腺死と稱せられるものである。例へば轉んだまゝ死亡し、汽笛に驚いて死亡せるが如きである。死の原因は肥大して居る胸腺の迷走神經及び心臟に及ぼす壓迫、胸腺内分泌の異常、神經中樞の異常等に歸するけれども、まだ闡明して居ない。胸腺淋巴體質のものは瘦弱、赤痢、猩紅熱、チフテリア、蟲核突起炎、血清過敏症などに罹り易い。この種のものに手術を施すことは特別注意を要する。薬剤としては刺戟療法、砒素劑を用ひ、理學的には人工太陽燈を應用する。

### 變性徵候

變性徵候 (Degenerationszeichen) は體質の異常を呈したるものを稱するのであるが、これを身體的、機能的及び精神的に



の三種に區別するこゝが出来る。

(甲) 身體的變性徵候

全身

巨大體格。侏儒。小兒性體格。男性にして女性的體格、女性にして男性的體格。右半身と左半身の均等を缺くもの。

軀幹

脊柱彎曲、脊椎骨數異常、脊椎破裂、斜頸、鳩胸、漏斗狀胸、先天性ヘルニア、第十肋骨浮遊。

四肢

多指、短指、多趾、先天性脱臼、先天性指癒着、爪彎曲、小指屈曲、外翻脚、○脚、扁平足。

頭部

大頭、小頭、扁頭、長頭、斜頭、短頭、塔頭、尖頭、鞍頭、左右不均等。

顔面

下顎突出、上顎突出、顴骨突出、下顎微小、前額削げ、前額突出、顔面左右不同。

眼

先天性盲目、眼球小、眼瞼裂斜、眼裂小、内眥贅皮、眼瞼缺損、虹彩缺損、虹彩著色左右不同、瞳孔異常、眼底色素

缺如、色素性網膜炎、生來性脈絡膜缺如。

鼻

鼻中隔斜、鼻梁の低きもの、鞍鼻。

口

過大、過小、厚唇、兔唇、口蓋隆起、懸雍垂分裂、口蓋狹小、口蓋高きもの、口蓋低きもの。

齒

齒列不正、乳齒生ぜぬもの、乳齒永存、齒尖方向異常、齒列間隔、贅齒、第二門齒缺如、齒列異常。

耳

耳殼小、耳殼過大、左右不同、耳輪缺如、耳輪上部折れ曲りしもの(モーレル型)、耳輪縁の尖れるもの(ダルウイン型)、立耳、耳前輪の曲れるもの、耳輪上端の尖れるもの(ツエルコピテクス猿型)、前耳輪脚の數多きもの、耳輪窩の狭小なるもの、前耳輪が耳輪に比し著明に高きもの(ワインデルムート型)、耳下垂の頬に密着するもの、耳前輪の一部又は全部の缺けたるもの。

乳房

副乳、男子の女性乳房、女子の乳房過小。

皮膚

白皮症、皮膚色素過剩、毛髮過多、生毛不全、兩側眉毛の接合せるもの、一部分色素缺損、生來性禿頭、早期白髮、魚鱗癬、母斑、血管腫。

生殖器

睪丸小、睪丸の潜伏、陰莖過小、尿道上破裂、尿道下破裂、半陰陽、無毛、兩角形子宮、鎖陰、小兒型子宮。

内臟

心臟位置異常、血管位置異常、肺心腎の異常。

(乙) 機能的變性徵候



遠視、近視、斜視、亂視、夜盲、色盲、まばたき頻回、難聴。知覺異常。呐吃、流涎、癡癡。遺尿、チヌチン尿、ア  
ルカプトン尿。早發性月經、晚發生月經、無月經。左利。頭痛、顔面神經異常、爪咬。夜驚。貧血。

(丙) 精神的變性徵候

- |             |         |                |
|-------------|---------|----------------|
| 智能發育の不充分のもの | 空想に耽るもの | 感情の著しく變化しやすきもの |
| 甚だしく嘘言をつくもの | 残忍性のもの  | 悖徳性のもの         |
| 盜癖あるもの      | 放火癖あるもの | 喧嘩好きのもの        |
| 衝動行爲の著しきもの  | 猜疑心強きもの | 嫉妬心強きもの        |
| 色情異常を呈するもの  |         |                |

疾病及び異常

學 校 病

學校生活に關聯して起る異常及び疾病がある。これは兒童の體質の薄弱であるがために、學校生活の際、不良の感作を  
受けるのである。

- その重なるものは次の如くである。
- 一、身長及び體重發達の遲滯
  - 二、貧 血
  - 三、頭重、頭痛
  - 四、食慾不進、便秘、嘔吐

- 五、脊 柱 彎 曲
- 七、神經痛、神經衰弱

小 兒 結 核

- 六、近 視
- 八、傳染病(例へば麻疹、チフテリ、猩紅熱、百日咳等)

小兒結核は頻而逢遇するもので、その種類を明にすることは、處置上に必要である。ライスマンは小兒結核を次の如く  
に分類した。

- 一、接觸確實であるがツベルクリン反應陰性のもの
- 二、接觸確實にしてツベルクリン反應陽性、然し病變確に認められず、氣管及び氣管支腺肥大の認められぬもの
- 三、小兒初期結核、ツベルクリン反應陽性、X光線像に於て僅微の氣管及び氣管支腺腫大のもの
- 四、少年期結核、ツベルクリン反應陽性氣管及び氣管支腺肥大著しく腫大、氣管支幹より肺葉間中隔に進み、結節  
を造るもの

五、成人型、肺實質に滲潤があり、空洞形成の傾向を有し物理的症候を伴ふもの  
小兒結核は主として接觸傳染である。病竈の有無はツベルクリンで試験し、陽性のもは更にX光線によつてその範  
圍を決定する。物理的症狀の僅微なるものでもX光線によりて多大の病變の存することを發見し得るこことがある。

(Henry A. Reisman, Archives of Pediatrics Vol XLIV No. 3, 1927 2據る。)

扁 桃 腺

扁桃腺の機能には今日まで左の如き諸説があるがまだ一定して居ない。



- 一、組織を補填して居るこの説
- 三、胎生期の遺残物なりこの説
- 五、血液を製造するこの説
- 七、喰菌作用ありこの説
- 九、有害物排泄器なりこの説

- 二、嚥下を補けるこの説
- 四、鼻汁、涙液、唾液を吸収するこの説
- 六、酸化素を分泌するこの説
- 八、内分 泌 説
- 一〇、淋巴液を流出するこの説

扁桃腺異常の場合には左の如き徴候が現はれる。

- 一、呼吸器 障 碍
- 四、言 語 障 碍
- 七、鼻 呼 吸

- 二、聽 器 の 障 碍
- 五、反 射 現 象
- 八、咀 嚼 不 十 分  
消 化 器 障 碍

- 三、精 神 機 能 の 障 碍
- 六、肝 腎 の 故 障
- 九、顔 貌 の 變 化

### 脊 柱 彎 曲

脊柱彎曲とは脊柱が生理的の程度を越えて左右、前後等に彎曲したるものを稱する。

#### 脊柱彎曲の原因

- 一、先天性原因
- 二、筋肉の薄弱なるため
- 三、書字、裁縫等の際に於ける姿勢の不正なるため
- 四、机、腰掛の不適當なるため
- 五、照光の不十分なるため
- 六、近視のため

八、常に學用品を片側に擔ふため

- 七、過勞のため
- 九、筆記帳、書物を正しく机上に置かねため

#### 脊柱彎曲の障 碍

脊柱彎曲は近視及び呼吸器障 碍の基となることがある。血行は循環を妨げられ、胃腸の作用は不活潑となる。腰椎部の彎曲は骨盤を不整形ならしめるものである。

#### 脊柱彎曲の豫防と治療

- 一、原因を除去する。
- 二、早期に脊柱彎曲を発見すること。
- 三、虚弱者、貧血、腺病質等になること多き故、その場合は適當の營養品を與へ、日光及び新鮮の空氣に觸れさせること。
- 四、適度の運動を奨励すること。
- 五、整形外科的處置。
- 六、體 操 療 法
  - イ、胸の運動―上體後屈
  - ハ、腹の運動―上體後倒、臂立伏臥
- 脊 柱 彎 曲 の 種 類 ( シ ャ ー ル テ ー ス 氏 分 類 )
  - ロ、脊の運動―上體前屈、伏以上體後屈
  - ニ、軀幹側方運動―上體左右屈



- 一、全 彎 曲
- 二、腰 部 彎 曲
- 三、腰 脊 部 彎 曲
- 四、脊 部 彎 曲
- 五、複 性 脊 柱 彎 曲
- 六、頸 脊 彎 曲

五六

### 腦 水 腫

腦水腫 (Gehirnwassersucht, Hydrocephalus) は脳室内又は硬脳膜下に過剰の腦脊髄液がたまつた状態で、前者を内脳水腫 (H, internus) 後者を外脳水腫 (H, externus) と稱するのである。貯溜の液は透明の水様性である。脳水腫を更に先天性 (Angeborener Wasserkopf) と後天性 (Erworbener Wasserkopf) とに分けることが出来る。脳水腫は過剰の水様液のために起るもの故に脳髓は自然壓迫を受け、その機能を不活潑ならしめ、智力障害を見る事が稀ではない。先天性脳水腫にありては頭蓋は異常に大なるため往々分娩の障碍を招く、この場合は脳に穿刺を行ひ水様液を流出せしめる必要がある。多くは生後一ヶ月位の間に徐々に脳水腫の著明なるものは精神發育が不十分である。處置は内科的にも外科的にもあるが根本的の療法ではない。慢性、軽度の脳水腫は高年まで生存することがある。

### 斜 頸

斜頸は出産時胸鎖乳筋肉内に出血して起ることがある。又同筋が短縮するに斜頸になる。斜頸の場合は頭は患側に顔は健側に向ふ。若し血腫のために起つた場合はその部分に温奄法、マッサージを施す。萎縮性短縮のものは、生後間もない頃では、肩と頭との間に物をはさんで矯正する。これで効果がなければ筋肉を分離して延長する。萎縮性短縮のものをそのままにして置くに顔面や脊柱に畸形を生ずることになるのである。

### 扁 平 足

兒童が一定の時期に達するに、土踏まずが出来る。それまでは平坦である。一定の時期になつても、土踏まずが出来なければ、之を扁平足といふ。扁平足は多くの場合は、先天性のものであるが、時としては、後天性に起ることがある。扁平足のものが長時間の佇立、歩行、重き物を持つ職業等に從事することは素より不適當である。

#### 扁平足の豫防

- 一、足も身體の一部分故、均しく清潔を守り、爪を正しく切ることを要する。
- 二、足を裸にして趾の運動を行ひ、足は關節に於て内方に廻轉する。
- 三、歩行及び起立の際は足尖を真直にし、外方に向けてはならぬ。
- 四、靴は短か過ぎたり、狭かつたり、尖り過ぎてはならぬ。
- 五、靴と靴下は足に適合することが必要である。
- 六、運動及び体操に際しては、足は正しい位置を踏むやうに注意する。
- 七、足部の病氣は速に治療する。

#### 扁平足の矯正法

扁平足矯正の目的で靴を用ひる場合には左の點に注意を要する。

- 一、靴の踵はあまり高きに失せざること
- 二、靴の狭小なるものは不可

#### 扁平足の治療法

- 一、休 息
- 二、按 摩
- 三、熱 氣 法

五七



四、體操法  
七、矯正靴

五、アインラーゲ法  
八、手術的療法

六、伴創膏療法

五八

### 睡眠異常

睡眠は兒童の年齢が少ければ少ないほど、多くの時間を必要とする。睡眠が妨げられると、直接身神に影響するのである。睡眠障碍の主なる理由は次の如くである。

- 一、體質 例へば神経質の場合などには僅かの原因でも睡眠の妨げられることがある。
- 二、身體狀態 例へば過勞、空腹、過食等の場合。
- 三、精神狀態 例へば憤怒、悲哀、驚愕、喜悅等の場合。
- 四、病氣
- 五、外界の狀況 例へば暑熱、寒冷等。

### 夢

夢 (Traum) は睡眠中意識が半ば復活した現象でその内容は覺醒後にそれを記憶して居るものである。

#### 夢の起因

主に末梢から來る感覺刺激を錯覺化して再現する場合を主として中樞の記憶を再現する場合との二つがある。

#### 夢の内容

末梢又は中樞の刺激によつて活動して來た個人の心情が、それに關聯せる記憶を材料にして描寫表現された意識現象で

内容は抽象的、具體的、主観的、客観的等の別がある。

### 言語障碍

言語障碍には次のやうな種類がある。

- 一、吃音 (ドモリ) (Stutter) 呼吸筋、喉頭筋、發音筋の痙攣によつて起るもので、オモチヤミ云ふのにオーオーオモチヤミ發音する類である。
- 二、片語 (カタコト) (Palera) これは生理的のもので幼兒が言葉を習ひ初める時に出る音である。後には正しい發音になるのである。
- 三、訛言 (ナマリ) (Sesamnia) これは或種の定まつた音だけが出ないものを云ふ。例へばラ行が發音出來ないので他の音で代用する類である。

### 言語障碍調査票

住所 姓名 年齢 男女 學年

#### 一、生齒

第一生齒の發生時期、其他ノ齒牙ノ發生時期、發齒障碍アリシカ。齒牙ノ病ニ罹リシカ。

#### 二、言語ノ發達

言語ヲ發セシハ何時カ。言語ノワカルヤウニナリシハ何時カ、文章的ノ言葉ハ何時ヨリ始マリシカ、文章ノ書取ガ出來ルカ、構音ハ如何——母音、サシスセソ、タチツツト、ラリルレロ、ハヒフヘホ、言語故障ノ種類及ビ程度、言語ノ

五九



### 近視

兒童、生徒及び學生の近視者が年々増加したるは憂ふべき現象なりし、大正八年九月十九日文部省は近視預防に關する注意につき訓令を出した。その大要は次の如くである。

採光 光 座席の左側から光を採る。光度は十分で平等なることが必要である。日光の直射を避ける。  
机、腰掛 身體に適したものをを用ひる。机と腰掛とを分離したるものは着席後離尺に注意し、軽度の陰性離尺を保たせる。

黑板、圖表 文字は大きく、色の鮮明なることを要する。不良の反射を避けることが肝要である。夜間はこの關係を特に注意する。黑板は常に黒くして置くことを要する。

讀書、習字、圖畫、手工、裁縫、間は、紙面と眼との距離を凡そ一尺とし、讀書の際は書物を机の水平面上約四十五度の角度にする。文字の太さ、色、形等は明瞭にする。動搖する處での讀書を避ける。書字は小さ過ぎてはいけ  
ない。圖畫、手工及び裁縫は過度に緻密なものを課してはならぬ。

服 裝 頸部を壓迫せぬやうにする。

眼の疲勞 眼の疲勞したるときは作業を變更し、時々距離を遠くして休養をはかる。

眼鏡 醫師の指圖によりて用ひしめる。

坐席 近視者の坐席を黑板の近くに置く。

(近視に關する智識 兒童、生徒、父兄に近視に關する智識を授ける。)

### 夜驚

夜驚は小兒が夜間睡眠中に突如として醒覺し、再び睡眠に入る状態を名づける。小兒は床よりはね起き、泣き、叫び、又は歩き廻ることがある。發作後再び睡眠し、翌朝目の覺めたる時は、全くその事實を知らぬのである。

夜驚は貧血、神經質、酒精濫用、精神劇動、消化不良、扁桃腺肥大、腸寄生蟲等の際起ることがある。

### 舞踏病

本病は一筋肉又は多數筋肉の不規則的、不隨意的運動で最も多いのは手、指、顔面、舌等にして、下肢、軀幹の筋肉にも起ることがある。その運動状態は静止を命ずるも、その運動は益々劇しくなる。兒童自己が病的異常運動を一時中止しやうと思ふもその目的が達せられるけれども、次に起る運動は尙ほ一層強いことがある。

### 痙攣

痙攣は身體の一部又は多數の筋肉の收縮によつて現はれる運動的放散である。多くは前驅として叫音、眼球回轉等の如き状態がある。又、後續的に嗜眠、昏迷、失神等に陥ることがある。又突如として痙攣に陥ることがある。

痙攣の發作 下肢強直となり、上肢は肘にて曲げ、手はかたく握り、頭を後部に曲げる。呼吸筋もその影響を受け、小兒は蒼白色となることがある。甚だしき場合は窒息假死の状態になることがある。

痙攣の原因 生れた日に起る痙攣發作は出生時の障礙で生じた腦膜又は腦皮質部の出血に本づく。この場合は痙攣を生ずることがある。急性傳染病の初期にも痙攣が起ることがある。耳鼻の病氣の時に、齒の發生、胃腸病の時に反射的に痙



癲癇を起すことがある。中毒の時にも起すことがある。先天的に癲癇を起すことがある。これ等は癲癇の初期に起すことがある。脳膜炎、出血等の場合に續發的に癲癇を起すことがある。

チ ツ ク

顔面筋肉の痙攣的運動、言語の激發的突發、遂には強迫的觀念、強迫行爲を起すものである。初めは顔面又は眼球に痙攣を起し、一定の規則で反覆するのである。又意志に反して罵言的言語を發することがある。この徴候は永く續くことがあるけれども、その智能はあまり障礙を受けぬ。多くはこの發作を自分で矯正せんことを努めるけれども、却て劇しく起ることが往々ある。斯の種の小兒は他の小兒より隔離し、嚴重に監督する必要がある。よく睡眠をさせ、十分に營養をさせ、靜かに生活させることが最も肝要なことである。

月 經 異 常

月經に關聯して身神に異常を起すことがある。それは月經の前後又は月經中に起る。専門家の統計によれば、月經時に全く障礙のないものは四分の一で、半数以上は骨盤内の臓器の苦痛を覺え、一二乃至一三%は全身障礙を發することを證明するに云ふ。重なる徴候は左の如くである。

身體的徴候

- 一、頭痛、頭重
- 二、腹痛、腰痛
- 三、倦怠、疲勞感
- 四、關節痛
- 五、皮膚濕潤
- 六、神經痛
- 七、嘔吐、下痢
- 八、齒痛

精神的徴候

- 一、記憶力減少
- 二、恐怖
- 三、鬱
- 四、暴言
- 五、犯罪
- 六、失神

色 盲

色盲とは一種又は他種の色彩に對して反應を缺くものを言ふのである。これに全色盲と部分色盲とがある。

全色盲 一切の色覺を喪失し、無色覺のみ存するもの。

部分色盲 ある種の色覺を喪失せるもの、中につき赤色盲が最も多い。

色盲の原因 色盲は主として遺傳的に起るもので、後天性には稀に中樞又は末梢器官の障礙によりて起ることがある。

色盲の選職 色盲あるものは一定の職業を避けることが必要である。例へば醫師、藥劑師、化學者、色素取扱業、畫家、

繪具師、玩具商、菓子製造業、絲商、呉服商、染物商、染物業、ポイントメン、左官等である。

夜 尿

夜尿(Nuresis)とは睡眠中、不隨意に排尿するものである。しかし三歳位までの夜尿は生理的の見做してよい。

夜尿の原因

- 一、官能的 膀胱其他臓器の障礙に基きて起る。
- 二、症候的 膀胱、腎の疾病、尿成分異常、尿管結合、包莖、陰門炎、ヘルニア、陰囊水腫、蛭蟲、肛門裂創、癲癇、舞踏病、貧血、ヒステリー、手汗、熱性病、腺増殖、精神發育制止、鼻腔腫脹、佝僂病等の場合に起る。



### 夜尿の取扱法

- 一、晝夜定刻に排尿させる
- 三、午後四時以後液體攝取節減
- 五、骨盤を挙げる
- 七、夜中起して排尿させる
- 九、全身の強壯療法
- 一一、電氣療法
- 一三、按摩
- 一五、暗示療法

### 貧

### 血

血液の量が少くなるを貧血状態と云ふ。この原因には二つの方面がある。

- 一、造血組織の變化 造血組織は脾臓と骨髓とであるから、こゝに變常を生ずるを貧血が起る。
- 二、血液自己の變化
  - (イ) 失血性貧血 (例) 鼻出血 胃出血 痔出血、外傷。
  - (ロ) 寄生蟲性貧血 (例) 十二指腸蟲、蟯虫、蛔虫。
  - (ハ) 疾病恢復期貧血
  - (ニ) 血液 液 毒 毒素のため、血球破壊され又は不良の影響を受けたるもの。

(ホ) 食餌性貧血 營養品の中に鐵分の不足によりて起る。

### 頭

### 痛

頭痛の起る原因は種々ある。故にその原因によりて頭痛の状態が區々である。従つてその治療の方法を異にする必要がある。

- 貧血性頭痛 前頭又は頭の一定部位に頭痛が起り、刺すやうに覺える。多く早期に起る。この種のものには滋養品を與へる、内服には鐵劑を可とする。
- 神經衰弱性頭痛 神經衰弱に對する治療を行ふ。
- 消化器性頭痛 前額、頭蓋に限局したこゝが多い。原因病を治するに自ら消失する。
- 耳疾性頭痛 乳頭突起部に激痛を訴へる。化膿が漏出するを頭痛が消散する。
- 急性傳染病性頭痛 傳染病の前驅症狀として頭痛が起る。
- 中毒性頭痛 化學的の中毒によりて起る。
- 偏頭痛 偏在せる頭痛で永く續くこゝがある。嘔吐を伴ひ、視覺の障礙を起し、痙攣性發作を起すこゝがある。生殖器性頭痛 自慰に本づくこゝがある。不安性にして、背部に痛みを伴ふこゝがある。

### 聾

### 啞

聾啞 (Taibetismus) は先天的にまたは後天的に聽覺に缺陷がある。そのため聾 (聽力不能) となり、その結果啞 (發音不能) となつたものである。



雙啞の教養については、十七世紀の頃よりその研究行はれたが一七七〇年に至り、巴里に雙啞學校が創立された、これが世界に於ける最初の雙啞學校である。教育法としては、手話法及び口話法がある。後者は前者よりも優れて發達した方法であるが前者に優る法である。

### 小兒の精神に 常を起す原因

甲)急に精神異常を起すもの

- 一、急性傳染病
- 二、腹中毒症疾患
- 三、腦及び腦膜の急性疾患
- 四、中 毒 症

乙)徐々に精神異常を起すもの

- 一、腦及び腦膜の慢性疾病
- 二、神 經 病
- 三、急性傳染病
- 四、貧 血 症
- 五、局所の疾病

### 早

### 熟

凡そ生物の成熟するには一定の原則を経るのである。しかるに年齢以上の生活能力を有するものがある。これを早熟と名づける。早熟の中には身體的のもの、精神的のもの、身神兩者を含むもの三種がある。身體的早熟のものは身長大にして早期より發情するを特徴とする。精神的早熟は智識的方面の發達著しく、往々にして成人を驚愕せしめることがある。俗に神童と稱せられるものはこの類に屬するものが多い。即ち書を能くし、繪を好み、音楽に秀づる等である。感情及び意志方面の早熟者はその言行恰も成人の如く、コドモらしさを失へる觀がある。早熟と關係の多いものは氣候、

人種、時代、家庭、保護者等である。早熟は人工的に造られることが多い。その結果早熟者の運命は多くは悲愴である。教育上大いに戒むべきことである。

### 神

### 童

神童と稱せられるもの多くは早熟のものである。神童の意味は到底、同じ年齢のものでは企劃することの出来ないことを敢て成し得ることを謂ふにある。例へば三歳の能書家、五歳の音楽家、六歳の名畫家といふ類である。

神童はこれを次ぎの二種に區別する必要がある。

一、假性神童 これは人工的に幼少の頃より強迫的に或る事柄を教育した結果によるもので、一定の時期が来るにそれ以上は進まない。日本で「十で神童、二十で才子、二十五からは並の人」と俗に語られるのはこの種のものである。

二、眞性神童 これは天賦が優れて居るため、幼少の頃よりある事柄に興味を持ち、熱心に修得し早くも群を抜いて世に名をなすの類である。

故にこの種の人には長じて後も並の人に低下して行くことはないのである。

要するに幼兒を強迫して假性神童たらしめることはよくない。これに反し優秀の天賦を有するものに對しては環境をよくし、天稟を發揮し易からしめるやうにするのが肝要である。

### 幻

### 覺

幻覺 (Hallucination) は外界に何等の刺激なくして起る架空的の知覺である。普通の知覺は外界に刺激があり、これが



求心性に中樞に傳はりて興奮するのである。然るに幻覺は五官の中樞面に刺激があつて、遠心性に進むのである。幻覺には次の種類がある。

一、其人其時に何等の關係なく奇想のものが現はれる場合——直接幻覺

二、其人其時の意識に略一致したるもの——間接幻覺

幻覺の内容 病氣、氣質、教育の程度等により種々である。

一、幻視外界の刺激なしに、中樞で物が見えるのである。その内容は単一なものから複雑に至る種々のものがある。

例へば燈、火花、影、山水、家屋、人物、動物、神、幽霊、戦争等の如きものである。酒客、癲癇、コカイン中毒に多く現はれる。

二、幻聴は外からの刺激なくして、中樞に音の聞えるものを稱するのである。その種類は、風の音、水の音、鐘の音、樂器の音、人の聲、談話、演説、ラヂオ、神の聲、男の聲、女の聲、戀人の聲なきである。

三、幻嗅は稀に起る。硫黄、毒、死骸等の臭がする。稀には爽快性のものもある。

四、幻味は人肉、糞、尿等の味を感じる。

五、幻觸は打撲、貫刺、咬嚼、接吻、抱擁等を感じる。

六、運動感覺の幻覺は、手が伸びたり、頭が左右へ廻つたりする感じのものである。

七、内臟感覺の幻覺は、臟器が位置をかへ、變形し、運動したと感ずる。

## 錯 覺

錯覺 (Illusion) は外界からの刺激が五官を通つて觀念中樞に傳はり、そこで變形になるのである。即ち外界の刺激の

部分のみを知覺するから、外界の刺激を他の異つたものと知覺するやうになる。しかも成立の模様は求心性である。これが幻覺を區別すべき點である。錯覺の發生は外界、五官の末梢及びその中樞である。即ち次の三種とする。

一、物理的錯覺 (Physikalische Illusion) は外界に生ずるもので、汽車の窓から外を見るに外界のものが後ろへ飛び行くやうに見えるのがその一例である。

二、生理的錯覺 (Physiologische Illusion) は五官の構造及び機能から當然起る場合である (例へば眼球を壓するに物像が二つに見える如き) 又覺官異常の場合にも起る。

三、精神性錯覺 (Psychische Illusion) は精神的に起るものである。發生する場所は大腦皮質の意識中樞である。即ち本人の意識生活が他の思想に専有されるものである。錯覺の種類には錯視、錯嗅、錯味、錯觸、内臟錯覺、運動錯覺がある。錯覺は精神過勞、飢餓時、就眠前、醒覺の直後、詩人、畫家、精神病的素質者、神經衰弱、精神病等の場合に起る。

## 強 迫 觀 念

強迫觀念 (Zwangsvorstellung) は或觀念經過中に他の觀念侵入し來り、異常の強さを持ち續きを以て固定し、その病的なることを知りながら、これを除くことの出來ぬ状態を言ふのである。故に個人はその觀念の非理なることを知つて居りながら、強迫觀念のために苦惱を感じ、遂にこれに服従して諸種の運動行爲をなすのである。これを強迫行爲と云ふ。強迫觀念はいつでも苦惱のあるものとは限らず、不快感情をおこすに止まることもある。強迫觀念はヒステリー、癲癇、神經衰弱、精神病等の初期に併發し、又單獨に發することもある。



## 保護及び教育

### 社會的異常兒童保護

異常兒童の数は普通人の想像するよりは多數である。之等の兒童の保護が徹底しないに個人的にも社會的にも種々の弊害をうける。故に社會的の保護機關の必要が起る、その保護の主なるものは左の如くである。

#### (甲) 身體的異常兒童保護

- |             |          |        |
|-------------|----------|--------|
| 一、不具癱疾兒童保護院 | 二、學校幼稚園  | 三、盲學校  |
| 四、聾啞院       | 五、難聽兒童學校 | 六、林間學校 |
| 七、大氣學校      |          |        |

#### (乙) 精神的異常兒童保護

- |          |             |         |
|----------|-------------|---------|
| 一、兒童觀察所  | 二、精神薄弱兒童教育院 | 三、補助學校  |
| 四、優秀兒童學校 | 五、白癡院       | 六、治療教育院 |
| 七、少年裁判所  | 八、少年院       | 九、感化院   |

### 林間學校

林間學校は虛弱兒童を收容して保養と教育とを併せ行ふ施設である。一八八一年學校衛生の大家バギンスキー氏この種

の施設の緊要なることを主唱し、一九〇四年獨逸シヤロツテンブルヒに最初の林間學校を開設した林間學校は夏休みに行ふもの、常設的のものがある。一時的のものは家庭、天幕等を使用し、常設的のものは多くは獨立校舍を有する。天候よき日はなるべく屋外で、天候の悪い日は教室で教授する。學校の兒童數を少くし、授業時間は二十分乃至三十分、一日授業時間を計三時間以内にする。放課時間には遊戯、散歩、體操的操練をさせる。午後はなるべく一定時間睡眠をさせる。食物は滋養の多いものをこらせる。

林間學校の効果は、兒童の健康を増進することである。即ち兒童の體重は増し、貧血、筋肉薄弱等の状態は消失するのである。故に林間學校は單に小學校兒童のみならず、尙ほ上級のもののためにも、この施設をしたところがある。

### 腺病質の子ども取扱

腺病質が増進するに諸種の疾病に侵され易い。殊に肺結核に侵されることが少くない。故に腺病質の子どもに對しては合理的の處置を必要とする。

#### 一般的方法としては

新鮮なる空氣中にて生活すること、滋養ある食物を與ふること、運動を適度に行ふこと、衣服を調節すること、太陽光線に多くふれしめること、皮膚の衛生を重んずること、睡眠を十分にすること。

#### 醫學的方法としては

日光浴を適用すること、紫外光線を應用すること、結核預防法を適用すること、強壯劑を服用せしむること、X光線を應用すること、其他必要なる醫療的方法を施すこと。



普通早教育を名づけられるものは、幼少の兒童に對しその年齢以上の程度の智識を授け、高速度を以て能力の進歩を期する方法である。早教育の獎勵者は十一歳でハーバード大學に入學した米國のサイデイスや、十三歳で同じハーバード大學に入學した米國のパールや、十四歳で大學を出たキーナーや、九歳の時ライプツヒ大學に入學し十四歳で哲學博士となり十六歳で法學博士となり後伯林大學の法學教授となつたカール、ウイツテの如き人々を例に引き、これ等の人は幼少の頃より教育を受けた故、斯く破天荒の進歩を見ないのである。現代の人々でも早教育さへ施せば非凡の人になることが出来る。主張するのである、しかし人間の能力は先天性素質と後天性の修養(教育)によりて養成せられるのである。されば教育に骨を折つても先天性の素質に缺陷があつたら、非凡の人にはなれない。又、この種の兒童に早教育を強いても底なき舟に水を盛るの類で早教育の目的を達することは出来ない。以上列舉した如き早教育の實例を見て直に三歳の我子に學習をさせ、讀書、算術、語學を強ひ、以て十歳の大學生を造らんとするが如きは、石を磨いて玉に化せんを欲するの類である。天賦の備らざるものに早教育を施すことは百害ありて利はない。眞の意味の早教育は出生と同時に初めらるることを要する。これ教育は個人の有せる身神の能力を適宜に發達させることを主眼とするからである。詳言すれば、個人の生理的、心理的、病理的状態に適應する教育を施すを要する。早教育の眞意義を明かにせずして徒に兒童の身神を勞する手段を講ずることは避けなければならぬ。

數學の出來ぬ子の取扱

數學の出來ないコドモの教育を行ふには先づ出來ぬ原因を檢べる必要がある。原因の主なるものは次の如くである。

- 一、生來性一般智力の弱いもの
- 二、智能は普通にして數學能力の不十分のもの
  - イ、身體虛弱のため
  - ロ、數學を嫌ふため
  - ハ、教授の不適當のため
- 一般家庭に於ける注意
  - 一、數觀念を養ふ
  - イ、實物を以て教授する
  - ロ、抽象的の取扱をする
  - 二、計量觀念を明にさせる
  - 三、家庭生活を數量化する
  - 一般算術教授上の注意
    - 一、よく問題を理解させる
    - 二、研究的、發見的ならしめる
    - 三、實際的、直觀的、具體的に導く
    - 四、反覆練習させる
    - 五、數字を正確に書かせる
    - 六、系統的に教へる
    - 七、興味を持たせる
    - 八、應用問題を學習せしめる
    - 九、身體の状態を顧慮する

(三田谷啓述「數學の教育」育兒雜誌第九卷第二、三號に據る)

吃音の治療法

吃音の原因は複雑して居るから、處置も亦多汎である。次に掲ぐるはグツツマン氏の方法である。



### 一、呼吸法

- 一、口を開き、音を出さずに、速に吸氣を行ひ、徐々に呼氣をする。吸氣に要する時間は五秒、呼氣には十五秒より二十秒を要す。
- 二、漸次呼氣を中絶すること二回乃至六回に及ぶ。
- 三、呼吸を固定すること十秒間とし、漸次増して三十、四十、五十秒に及ぶ。
- 四、吸氣を迅速に且強くする。呼氣も亦これに同じ。
- 五、呼吸を二回中止する（一回二十秒）呼氣を六回以上に分けてはならぬ。

### 二、聲音器練習

初めは母音を練習し、次に語句に移る、即ち最初は息音、次いで呼語、最後に發聲せしめるのである。最初は低聲で、後高聲に移る。

### 三、發音運動練習

鏡面の補助により口唇、舌、齒牙、口蓋等の位置を正しくする。複雑したる長語句は別けて發音させる。初は聲を出さず、正しき形を教へ、後に發音させる。

### 四、朗讀及談話練習

すべての單音を隨意に發聲し得るやうになるまで朗讀を始め、次いで談話に移る。

### 五、素因の改善

先天性神經性素因を改良することは必要である。酒精飲料を避けねばならぬ。氣道の障礙を除くこと、佳良の營養品を用ひること等も大切である。

### 恐怖に對する教育上の注意

- 一、恐怖を教育上の手段として用ふるは不可なれども、誤用するときは身神に悪影響を及ぼすに至る。
- 二、幼少の兒童を恐嚇することは害ありて益はない。
- 三、童話を取扱ふ際、恐怖を起さぬやうに注意する。
- 四、宗教上の畏敬は基礎的感情を養成すること故必要である。

五、恐るべからざるものを恐れる場合は、その不可なるをよくさし、その情緒を根本的に絶つことを努める。

## 難聽兒の教育

難聽は聽力の不十分なるものを云ふ。その程度に応じて次の三種に分ける。

- 一、強度難聽 半米又はそれ以下の距離で私語を聽取し得るもの
- 二、中等度難聽 半米乃至三米の距離で私語を聽取し得るもの
- 三、輕度難聽 三乃至八米にて私語を聽取し得るもの

### 難聽兒の取扱

- 一、言語及び口の運動につき、兒童に注意をさせる。
- 二、難聽兒に對して話をする場合には努めて口の運動、發音を著明にする必要あり。
- 三、學校に於ける坐席は教壇の近くに置く。
- 四、難聽兒のために講習會を催す。
- 五、難聽兒を聾啞學校に收容することは適當ではない。聽難兒學校を設くるのが至當である。
- 六、難聽の外、耳疾ある場合には、それを治療することゝ要する。

## 睡眠の障礙に對する處置

睡眠の障礙ある場合に、これが處置を適當にするには左の諸法を用ふ。

- 一、原因的處置——睡眠障礙の原因を探り、これを除くことであつて、最も必要である。



- 二、藥劑療法
- 三、食餌療法
- 四、氣候療法——(例)新鮮の空氣中に住み、適當の運動を行ひ、五官の刺激を避けるが如き。
- 五、理學的療法——(例)體操、按摩、水治法、浴法、電氣療法等の如き。
- 六、暗示療法
- 七、作業療法——これによつて精神沈靜し、身神機分疲勞を招き、ために睡眠を促すに至る、戶外の作業殊によろし

罰

罰の意義 惡行を指摘してこれを戒め將來に起る不良行爲を豫防する手段である。

罰の方法

態度(顔貌、目等にて)

言語(罵ら、叱る)

身體に關する罰 (例)食物を與へぬ、禁足する、動勞を命ずる、打つ、叩く、佇立させる、物品を持たせる。

罰の注意

男女、年齢、性質を顧慮する

常用はよくない

惡口にて罵るのはよくない

公平なることを要する

輕重を誤つてはならぬ

體罰は避けることを理想とする

他人の前で叱責してはならぬ

身體の弱いものには體罰を加へてはならぬ

惡行爲は自發的のものか偶然のものかを調べる  
怒に乘じて叱つてはならぬ

興奮性の者には特別の注意が要る

身體異常者の職業選擇

身體異常者の職業選擇に關しては特別の注意が要る。即ち一定の職業は絕對に之を避ける必要がある。もし不適當な職業に従事するに自他の危害を招き易いものである。

呼吸器に異常あるもの

避くべきもの  
塵埃、煤煙、冷濕氣の多い場所で作業するもの、例へば礦物、陶器、石工、セメント、色素、硝子、綿、紡績、煙草、煙突、織物等を取扱ふ如き職業。音樂家、講談師。

望ましきもの——園藝家、庭園師、看板師、農業。

心臟に異常あるもの

避くべきもの  
壓迫的力量的作業、例へば仲仕、屋根職、運搬人、礦夫、石工、力士、軍人、馬術家、武藝者。

望ましきもの——製本、活字組、書字、代書、事務。

神經系統に異常あるもの

避くべきもの——教師、軍人、宗教家、醫師、辯護士、タイピスト。  
望ましきもの——農夫、牧畜、製本、裁縫、書字、文學。

足に異常あるもの

避くべきもの——佇立、歩行を要するもの。  
望ましきもの——手工業、植字工、筆司、裁縫師、編物、製圖、商人、事務員、計算手、詩人、作家、時計師。



五官器に異常あるもの

一眼のもの—石工、兵士、航海者、礦夫、建築師、屋根職等は不可。  
近視のもの—校正係、刺繍師、時計師等は不可。  
均衡を失ふことがあるから屋根職、煙突掃除等は不適。  
聴官故障のもの—音楽、講演、接待、電話交換手、料理業等も不可。

醫學的診査を行ふに方りては、その異常が一時性のものか、持続性のものかを決定しなければならぬ。持続性異常のものは一定の職業を得ることは絶望である。一時的のものでも反覆したか否かを檢せねばならぬ(肺炎、肋膜炎、結核、イマチス等の如き)職業には重度のものゝ軽度のものゝがある。軽度のもので人によりて重度になる。(扁手足や起立性蛋白尿のものが佇立性歩行性作業を永續する如き)故に職業の種類と身體の狀態とを綜合して然る後に決定することゝを必要とする。

昭和四年三月二十七日印刷  
昭和四年三月三十日發行

岡山縣學務部社會課

岡山市門田四三五  
印刷者 村尾 磯太郎

岡山市門田四三五  
印刷所 村尾印刷所



319  
829



